

第2章 住民等意識調査結果

1. 調査概要

1) 調査の目的

第3次上尾市環境基本計画の策定にあたり、市民及び、市内の事業者の現状や意向を把握し、計画へ反映するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

2) 調査の方法

①市民アンケート調査

調査の対象者、調査期間、配布・回収方法、回収率は以下の通りです。

調査対象	住民基本台帳から上尾市内に在住する満18歳以上の人1,500名を無作為抽出
調査時期	令和元年11月6日～11月20日
配布・回収方法	郵送による発送・回収
回収票	513票
回収率	34.2%

②事業者アンケート調査

調査の対象者、調査期間、配布・回収方法、回収率は以下の通りです。

調査対象	商工会議所名簿から上尾市内に所在する500事業者を無作為抽出
調査時期	令和元年11月6日～11月20日
配布・回収方法	郵送による発送・回収
回収票	113票
回収率	22.6%

【留意事項（市民・事業者アンケート共通）】

○設問には1つのみ答えるもの（シングルアンサー（SA））と複数回答のもの（マルチアンサー（MA））がありマルチアンサーの設問では、割合の合計は100%を超えます。

○グラフなどに表示している「n」は、各設問に対する「回答者数」です。

○百分率（%）の計算は、小数点第2位を四捨五入し、少数点第1位まで表示しています。

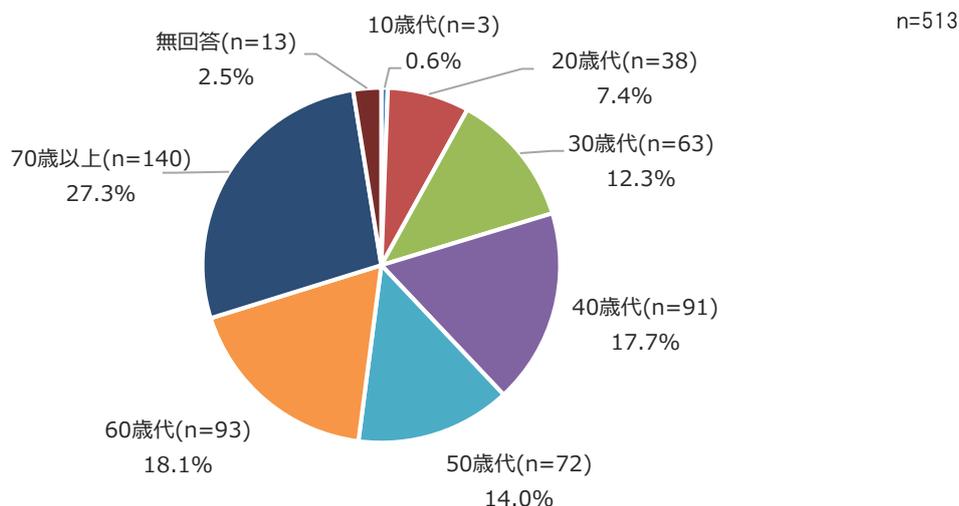
○マルチアンサーの設問において、回答数をベースとして百分率（%）の表示がされている場合があります。この場合、「回答数」をグラフ上部に記載しています。

2. 市民アンケート調査結果

1) 回答者属性

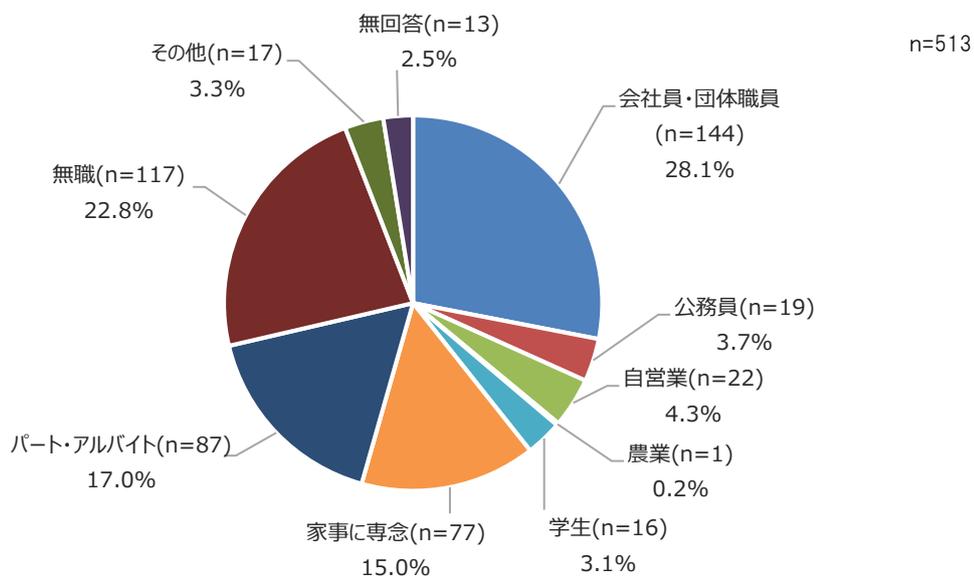
①年齢（問1）（SA）

年齢についてみると、「70歳以上」が27.3%と最も多く、次いで「60歳代」が18.1%、「40歳代」が17.7%となっています。



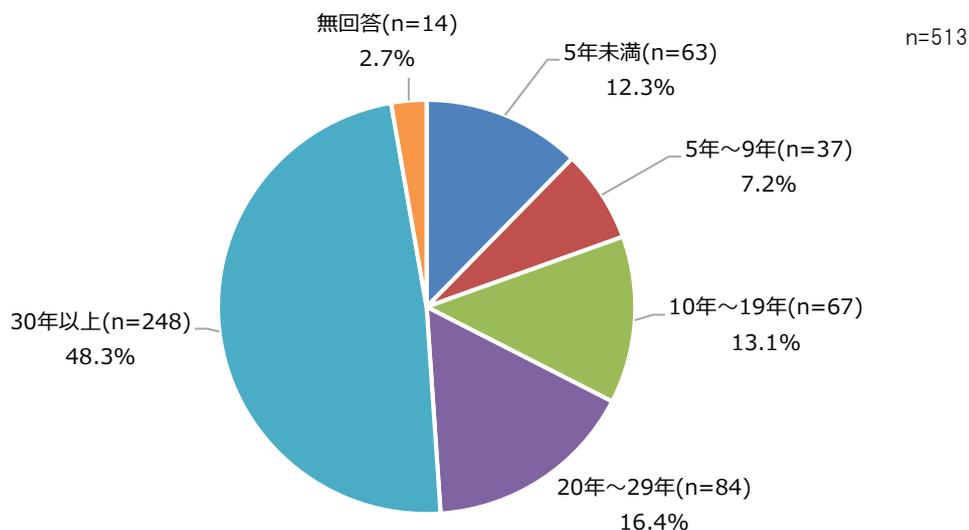
②職業（問2）（SA）

職業についてみると、「会社員・団体職員」が28.1%と最も高く、次いで「無職」が22.8%、「パート・アルバイト」が17.0%となっています。



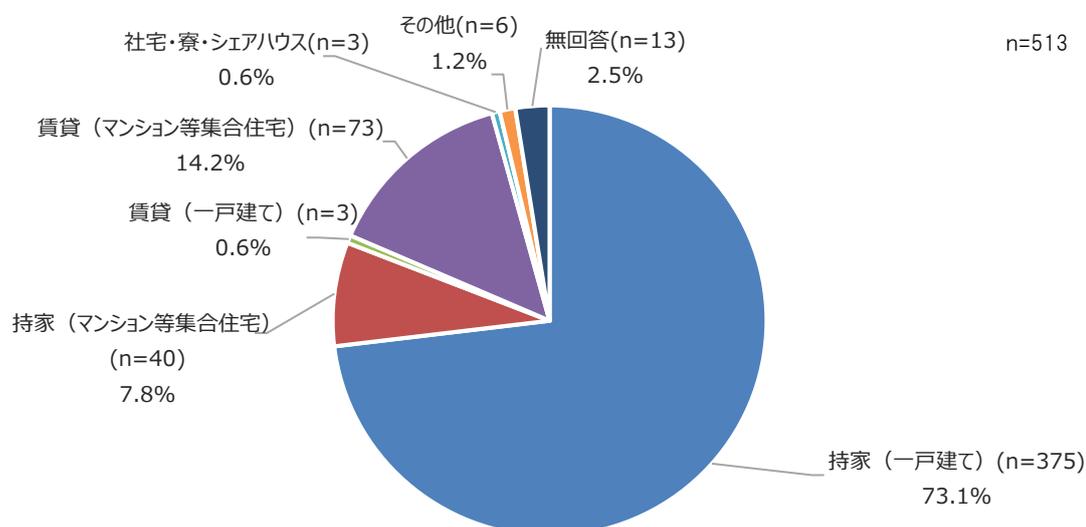
③居住年数（問3）（SA）

居住年数についてみると、「30年以上」が48.3%と最も多く、次いで「20年～29年」が16.4%、「10年～19年」が13.1%となっています。



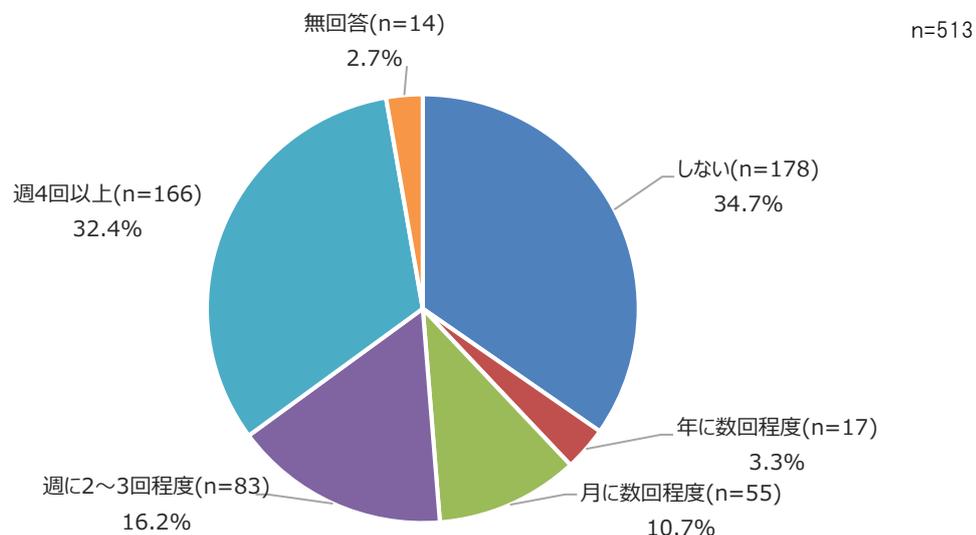
④居住形態（問4）（SA）

居住形態についてみると、「持家（一戸建て）」が73.1%と最も多く、次いで「賃貸（マンション等集合住宅）」が14.2%、「持家（マンション等集合住宅）」が7.8%となっています。



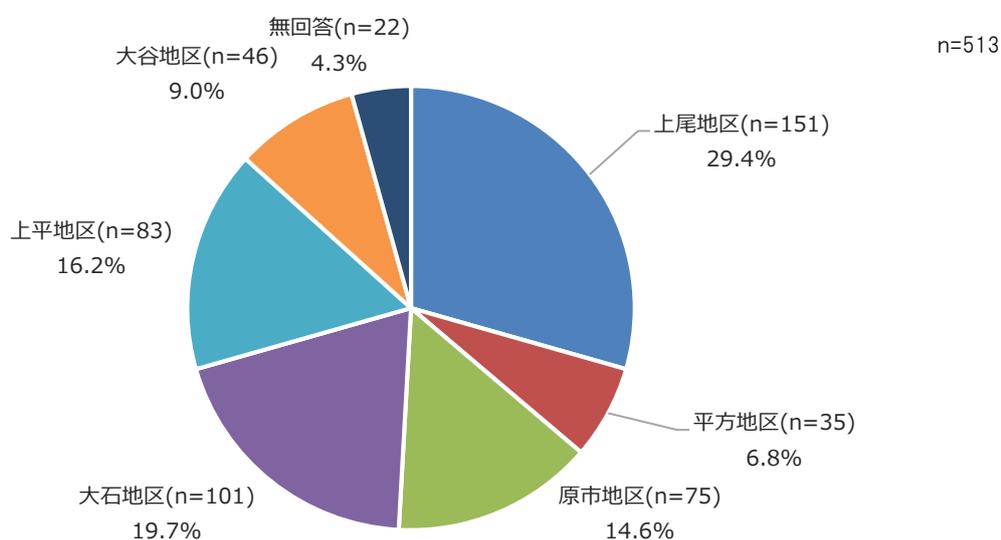
⑤自動車の運転状況について（問 5）（SA）

自動車の運転状況についてみると、「しない」が34.7%で最も多く、次いで「週4回以上」が32.4%、「週に2～3回程度」が16.2%となっています。「週に2～3回以上」で約半数を占めています。



⑥居住地区（問 6）（SA）

居住地区についてみると、「上尾地区」が29.4%と最も多くなっており、次いで「大石地区」が19.7%、「上平地区」が16.2%となっています。



2) 周辺環境に対する考え方について

①-1 自身の住む周辺環境に対する満足度（問7）（SA）

周辺環境に対する満足度についてみると、『満足』と『やや満足』を合わせた満足度の高い項目としては、「買物や交通の便利さ」が42.1%と最も高く、「ばい煙、臭い（悪臭）などの感覚」、「周辺のきれいさ（ごみの散乱などが無い）」、「騒音や振動などの静かさ」、「ゆとりある空間（公園、広場）の豊かさ」、「まちなみの美しさ」については3割以上の人において満足度が高くなっています。

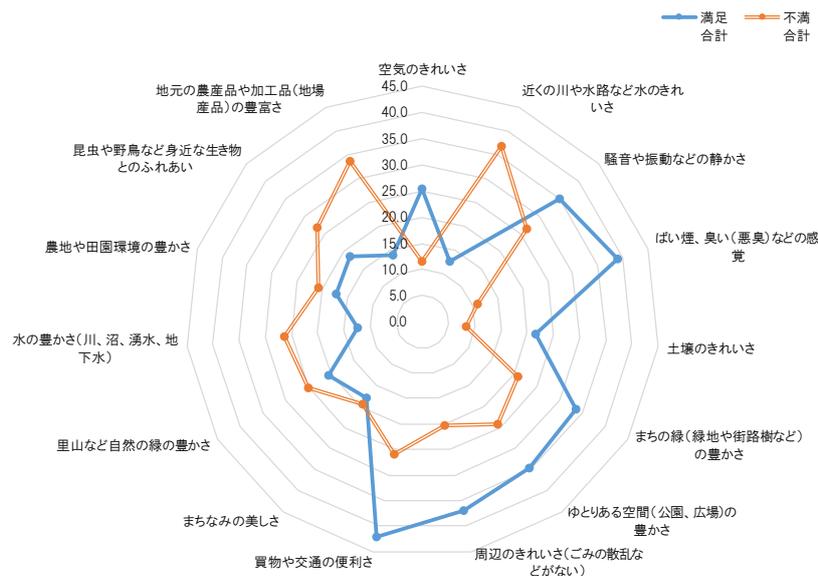
また、『やや不満』と『不満』を合わせた不満度の高い項目についてみると、「近くの川や水路など水のきれいさ」が36.6%と最も高く、次いで「地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ」が33.5%と高くなっています。

【自身の住む周辺環境に対する満足度（全地区）】

地区	環境種別	環境項目	満足	やや満足	満足合計	普通	やや不満	不満	不満合計	無回答
全地区	生活環境	空気のきれいさ	9.9	15.6	25.5	57.9	9.2	2.3	11.5	5.1
		近くの川や水路など水のきれいさ	2.1	10.5	12.7	46.4	28.5	8.2	36.6	4.3
		騒音や振動などの静かさ	12.9	22.2	35.1	35.7	18.1	8.6	26.7	2.5
		ばい煙、臭い（悪臭）などの感覚	15.2	23.8	39.0	46.4	7.2	3.7	10.9	3.7
		土壌のきれいさ	7.6	14.0	21.6	65.1	7.2	1.2	8.4	4.9
	都市環境	まちなみの美しさ	11.7	21.8	33.5	41.3	16.8	4.3	21.1	4.1
		ゆとりある空間（公園、広場）の豊かさ	10.7	23.8	34.5	37.4	16.6	7.6	24.2	3.9
		周辺のきれいさ（ごみの散乱などが無い）	10.7	26.3	37.0	39.8	15.8	4.5	20.3	2.9
		買物や交通の便利さ	17.7	24.4	42.1	29.2	16.8	9.2	25.9	2.7
		まちなみの美しさ	5.3	12.7	17.9	58.9	14.0	5.5	19.5	3.7
	自然環境	里山など自然の緑の豊かさ	5.8	14.6	20.5	50.5	18.9	6.2	25.1	3.9
		水の豊かさ（川、沼、湧水、地下水）	4.3	8.0	12.3	56.5	20.3	6.0	26.3	4.9
		農地や田園環境の豊かさ	5.3	11.9	17.2	57.3	17.2	3.7	20.9	4.7
		昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい	4.7	13.8	18.5	50.5	20.7	6.2	26.9	4.1
		地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ	4.1	9.7	13.8	48.5	26.9	6.6	33.5	4.1

※満足合計、不満合計欄のうち割合が30%以上のものに着色

【自身の住む周辺環境に対する満足度と不満度】



また、平成 26 年度における同様の調査との比較を行うと、満足合計が 30%以上のものについては、平成 26 年度では 2 項目であったものが、平成 31 年度調査では 6 項目へと増加しています。

特に「騒音や振動などの静かさ」、「周辺のきれいさ（ごみの散乱などがない）」の 2 項目において 10%近い満足度の向上が見られます

一方、「空気のきれいさ」、「土壌のきれいさ」、「買物や交通の便利さ」の項目において、平成 26 年度調査に比べ満足度の減少が見られます。

【満足度（満足+やや満足の合計）の平成 26 年度調査との比較】

（単位：％）

環境種別	項目	平成26年度調査 満足合計	平成31年度調査 満足合計	差引
生活環境	空気のきれいさ	27.5	25.5	▲ 2.0
	近くの川や水路など水のきれいさ	10.4	12.7	2.3
	騒音や振動などの静かさ	25.6	35.1	9.5
	ばい煙、臭い(悪臭)などの感覚	31.4	39.0	7.6
	土壌のきれいさ	22.6	21.6	▲ 1.0
都市環境	まちの緑(緑地や街路樹など)の豊かさ	26.8	33.5	6.7
	ゆとりある空間(公園、広場)の豊かさ	29.1	34.5	5.4
	周辺のきれいさ(ごみの散乱などがない)	27.2	37.0	9.8
	買物や交通の便利さ	42.6	42.1	▲ 0.5
	まちなみの美しさ	17.0	17.9	0.9
自然環境	里山など自然の緑の豊かさ	18.7	20.5	1.8
	水の豊かさ(川、沼、湧水、地下水)	12.1	12.3	0.2
	農地や田園環境の豊かさ	13.2	17.2	4.0
	昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい	12.7	18.5	5.8
	地元の農産品や加工品(地場産品)の豊富さ	10.5	13.8	3.3

※満足合計のうち 30%以上のものに着色

①-2 居住地区別の周辺環境への満足度（クロス集計）

【上尾地区】

上尾地区における周辺環境への満足度について、『満足』と『やや満足』の合計が30%以上と満足度の高い環境項目についてみると、「ばい煙、臭い（悪臭）などの感覚」、「買物や交通の便利さ」において満足度が高くなっています。

一方、『やや不満』と『不満』の合計が30%以上と不満足度の高い項目についてみると、「近くの川や水路など水のきれいさ」、「騒音や振動などの静かさ」、「里山など自然の緑の豊かさ」、「昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい」、「地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ」が高くなっています。

都市環境において満足度が高く、自然環境において不満足度が高い傾向が見られます。

（単位：％）

地区	環境種別	環境項目	満足	やや満足	満足合計	普通	やや不満	不満	不満合計	無回答
上尾地区	生活環境	空気のきれいさ	5.3	15.2	20.5	62.3	8.6	4.0	12.6	4.6
		近くの川や水路など水のきれいさ	2.6	9.9	12.6	45.7	29.1	8.6	37.7	4.0
		騒音や振動などの静かさ	7.9	21.2	29.1	34.4	23.8	9.9	33.8	2.6
		ばい煙、臭い（悪臭）などの感覚	11.3	21.9	33.1	51.0	7.9	4.0	11.9	4.0
		土壌のきれいさ	4.6	15.9	20.5	66.2	7.9	1.3	9.3	4.0
	都市環境	まちの緑（緑地や街路樹など）の豊かさ	8.6	17.9	26.5	42.4	20.5	7.3	27.8	3.3
		ゆとりある空間（公園、広場）の豊かさ	9.9	17.2	27.2	43.0	19.2	7.3	26.5	3.3
		周辺のきれいさ（ごみの散乱などが無い）	7.9	17.2	27.2	43.0	19.2	7.3	26.5	3.3
		買物や交通の便利さ	23.2	27.8	51.0	39.7	6.6	1.3	7.9	1.3
		まちなみの美しさ	7.9	12.6	20.5	57.6	13.9	3.3	17.2	4.6
	自然環境	里山など自然の緑の豊かさ	3.3	8.6	11.9	49.7	28.5	6.0	34.4	4.0
		水の豊かさ（川、沼、湧水、地下水）	3.3	7.3	10.6	55.6	23.2	6.0	29.1	4.6
		農地や田園環境の豊かさ	2.6	7.9	10.6	58.3	21.9	4.6	26.5	4.6
		昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい	2.0	13.9	15.9	46.4	25.2	7.9	33.1	4.6
地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ		2.6	11.9	14.6	45.7	27.2	8.6	35.8	4.0	

【平方地区】

平方地区における周辺環境への満足度について同様にみると、「近くの川や水路など水のきれいさ」及び「買物や交通の便利さ」において不満足度が高くなっていますが、その他の項目においては概ね満足度が高くなっています。

（単位：％）

地区	環境種別	環境項目	満足	やや満足	満足合計	普通	やや不満	不満	不満合計	無回答
平方地区	生活環境	空気のきれいさ	14.3	14.3	28.6	54.3	5.7	2.9	8.6	8.6
		近くの川や水路など水のきれいさ	0.0	17.1	17.1	42.9	34.3	2.9	37.1	2.9
		騒音や振動などの静かさ	11.4	31.4	42.6	25.7	17.1	11.4	28.6	2.9
		ばい煙、臭い（悪臭）などの感覚	14.3	34.3	48.6	28.6	11.4	8.6	20.0	2.9
		土壌のきれいさ	11.4	22.9	34.3	51.4	5.7	2.9	8.6	5.7
	都市環境	まちの緑（緑地や街路樹など）の豊かさ	14.3	42.9	57.1	28.6	8.6	0.0	8.6	5.7
		ゆとりある空間（公園、広場）の豊かさ	20.0	28.6	48.6	25.7	17.1	2.9	20.0	5.7
		周辺のきれいさ（ごみの散乱などが無い）	8.6	31.4	40.0	40.0	11.4	2.9	14.3	5.7
		買物や交通の便利さ	14.3	14.3	28.6	31.4	25.7	11.4	37.1	2.9
		まちなみの美しさ	0.0	11.4	11.4	65.7	17.1	0.0	17.1	5.7
	自然環境	里山など自然の緑の豊かさ	14.3	34.3	48.6	42.9	5.7	0.0	5.7	2.9
		水の豊かさ（川、沼、湧水、地下水）	11.4	31.4	42.9	28.6	20.0	2.9	22.9	5.7
		農地や田園環境の豊かさ	11.4	22.9	34.3	54.3	5.7	0.0	5.7	5.7
		昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい	20.0	22.9	42.9	45.7	2.9	0.0	2.9	8.6
地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ		5.7	31.4	37.1	45.7	8.6	2.9	11.4	5.7	

【原市地区】

原市地区における周辺環境への満足度について同様にみると、「騒音や振動などの静かさ」、「ばい煙、臭い（悪臭）などの感覚」、「買物や交通の便利さ」において満足度が高くなっています。

一方、不満足度の高い項目についてみると、「近くの川や水路など水のきれいさ」、「ゆとりある空間（公園、広場）の豊かさ」、「買物や交通の便利さ」、「まちなみの美しさ」、「地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ」において高くなっています。

（単位：％）

地区	環境種別	環境項目	満足	やや満足	満足合計	普通	やや不満	不満	不満合計	無回答
原市地区	生活環境	空気のきれいさ	8.0	8.0	16.0	62.7	14.7	0.0	14.7	6.7
		近くの川や水路など水のきれいさ	1.3	9.3	10.7	52.0	24.0	8.0	32.0	5.3
		騒音や振動などの静かさ	10.7	20.0	30.7	36.0	20.0	9.3	29.3	4.0
		ばい煙、臭い（悪臭）などの感覚	10.7	21.9	32.0	60.0	2.7	0.0	2.7	5.3
		土壌のきれいさ	5.3	9.3	14.7	70.7	8.0	0.0	8.0	6.7
	都市環境	まちの緑（緑地や街路樹など）の豊かさ	12.0	14.7	26.7	46.7	17.3	4.0	21.3	5.3
		ゆとりある空間（公園、広場）の豊かさ	9.3	17.3	26.7	32.0	24.0	12.0	36.0	5.3
		周辺のきれいさ（ごみの散乱などがない）	8.0	20.0	28.0	40.0	24.0	5.3	29.3	2.7
		買物や交通の便利さ	9.3	21.3	30.7	20.0	26.7	16.0	42.7	6.7
		まちなみの美しさ	2.7	6.7	9.3	52.0	21.3	12.0	33.3	5.3
	自然環境	里山など自然の緑の豊かさ	4.0	20.0	24.0	46.7	14.7	8.0	22.7	6.7
		水の豊かさ（川、沼、湧水、地下水）	1.3	6.7	8.0	61.3	18.7	4.0	22.7	8.0
		農地や田園環境の豊かさ	4.0	17.3	21.3	56.0	12.0	4.0	16.0	6.7
		昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい	2.7	8.0	10.7	58.7	17.3	9.3	26.7	4.0
		地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ	2.7	9.3	12.0	44.0	29.3	9.3	38.7	5.3

【大石地区】

大石地区における周辺環境への満足度について同様にみると、「近くの川や水路など水のきれいさ」において、不満足度が高くなっていますが、『生活環境』、『都市環境』の各環境項目において概ね満足度が高くなっています。

一方、『自然環境』においては、満足度の高い項目はなく、「地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ」における不満足度が高くなっています。

（単位：％）

地区	環境種別	環境項目	満足	やや満足	満足合計	普通	やや不満	不満	不満合計	無回答
大石地区	生活環境	空気のきれいさ	13.9	23.8	37.6	47.5	8.9	2.0	10.9	4.0
		近くの川や水路など水のきれいさ	5.0	11.9	16.8	47.5	26.7	5.0	31.7	4.0
		騒音や振動などの静かさ	16.8	19.8	36.6	37.6	17.8	5.9	23.8	2.0
		ばい煙、臭い（悪臭）などの感覚	21.8	24.8	46.5	37.6	9.9	3.0	12.9	3.0
		土壌のきれいさ	11.9	13.9	25.7	63.4	5.9	1.0	6.9	3.0
	都市環境	まちの緑（緑地や街路樹など）の豊かさ	14.9	29.7	44.6	32.7	14.9	0.0	14.9	5.9
		ゆとりある空間（公園、広場）の豊かさ	9.9	35.6	45.5	32.7	11.9	5.9	17.8	4.0
		周辺のきれいさ（ごみの散乱などがない）	13.9	27.7	41.6	38.6	13.9	4.0	17.8	2.0
		買物や交通の便利さ	21.8	28.7	50.5	25.7	10.9	9.9	20.8	3.0
		まちなみの美しさ	7.9	13.9	21.8	62.4	8.9	4.0	12.9	3.0
	自然環境	里山など自然の緑の豊かさ	10.9	14.9	25.7	54.5	10.9	5.9	16.8	3.0
		水の豊かさ（川、沼、湧水、地下水）	8.9	5.9	14.9	56.4	16.8	6.9	23.8	5.0
		農地や田園環境の豊かさ	7.9	11.9	19.8	57.4	13.9	5.0	18.8	4.0
		昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい	7.9	15.8	23.8	50.5	17.8	4.0	21.8	4.0
		地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ	5.9	6.9	12.9	47.5	31.7	4.0	35.6	4.0

【上平地区】

上平地区における周辺環境への満足度について同様にみると、「騒音や振動などの静かさ」、「ばい煙、臭い（悪臭）などの感覚」、「まちの緑（緑地や街路樹など）の豊かさ」、「ゆとりある空間（公園、広場）の豊かさ」、「周辺のきれいさ（ごみの散乱などが無い）」において満足度が高くなっています。「買物や交通の便利さ」においては、満足度、不満足度がともに高くなっています。

一方、「近くの川や水路など水のきれいさ」、「水の豊かさ（川、沼、湧水、地下水）」、「地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ」において不満足度が高くなっています。

（単位：％）

地区	環境種別	環境項目	満足	やや満足	満足合計	普通	やや不満	不満	不満合計	無回答
上平地区	生活環境	空気のきれいさ	14.5	13.3	27.7	60.2	7.2	2.4	9.6	2.4
		近くの川や水路など水のきれいさ	1.2	9.6	10.8	43.4	30.1	12.0	42.2	3.6
		騒音や振動などの静かさ	21.7	22.9	44.6	36.1	10.8	7.2	18.1	1.2
		ばい煙、臭い（悪臭）などの感覚	20.5	26.5	47.0	38.6	4.8	7.2	12.0	2.4
		土壌のきれいさ	9.6	13.3	22.9	62.7	6.0	2.4	8.4	6.0
	都市環境	まちの緑（緑地や街路樹など）の豊かさ	10.8	20.5	31.3	48.2	14.5	3.6	18.1	2.4
		ゆとりある空間（公園、広場）の豊かさ	12.0	24.1	36.1	37.3	12.0	10.8	22.9	3.6
		周辺のきれいさ（ごみの散乱などが無い）	14.5	27.7	42.2	36.1	12.0	8.4	20.5	1.2
		買物や交通の便利さ	16.9	18.1	34.9	24.1	25.3	14.5	39.8	1.2
		まちなみの美しさ	2.4	12.0	14.5	61.4	15.7	7.2	25.3	3.6
	自然環境	里山など自然の緑の豊かさ	3.6	13.3	16.9	54.2	18.1	7.2	25.3	3.6
		水の豊かさ（川、沼、湧水、地下水）	2.4	6.0	8.4	56.6	20.5	10.8	31.3	3.6
		農地や田園環境の豊かさ	6.0	12.0	18.1	55.4	19.3	2.4	21.7	4.8
		昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい	3.6	10.8	14.5	55.4	22.9	4.8	27.7	2.4
		地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ	3.6	4.8	8.4	54.2	27.7	6.0	33.7	3.6

【大谷地区】

大谷地区における周辺環境への満足度について同様にみると、「騒音や振動などの静かさ」、「ばい煙、臭い（悪臭）などの感覚」、「ゆとりある空間（公園、広場）の豊かさ」、「周辺のきれいさ（ごみの散乱などが無い）」において満足度が高くなっており、「買物や交通の便利さ」においては、満足度、不満足度がともに高くなっています。

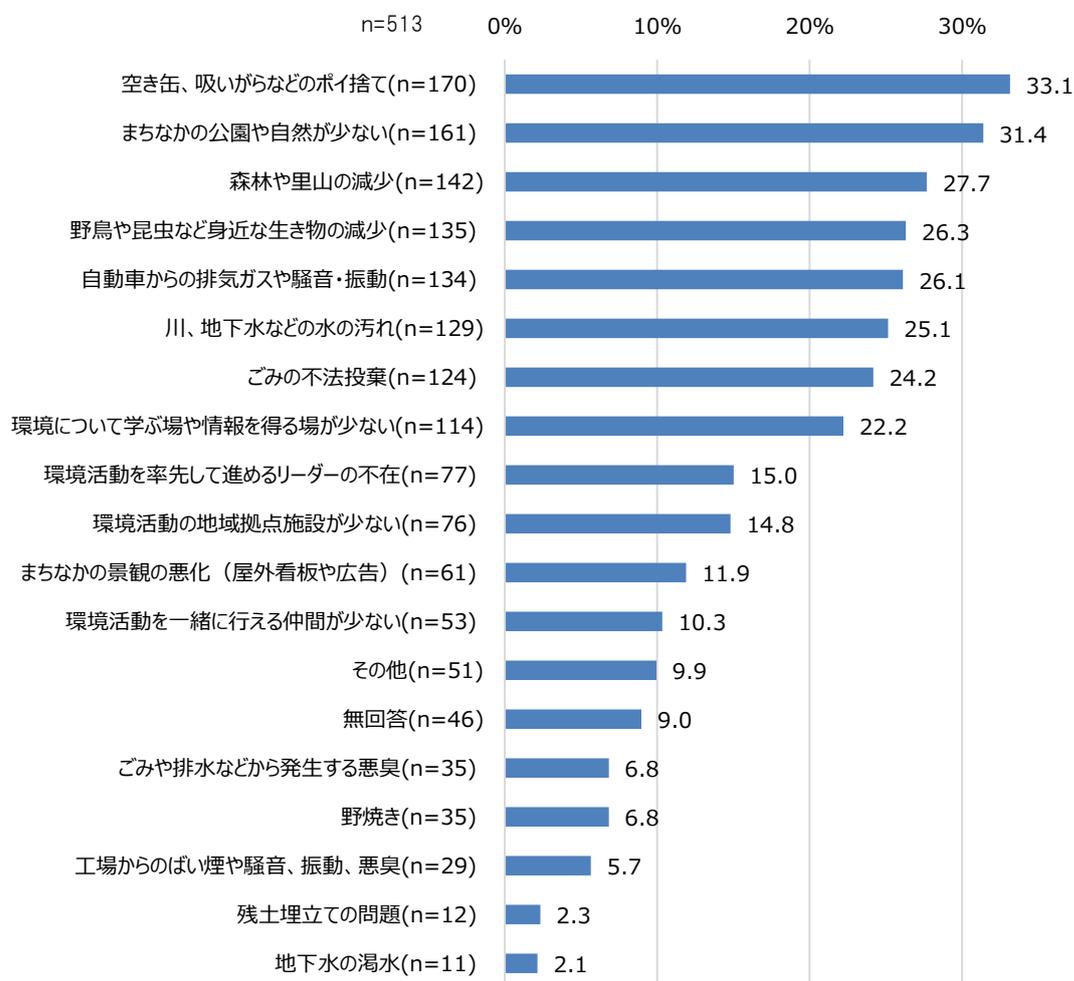
一方、「近くの川や水路など水のきれいさ」、「里山など自然の緑の豊かさ」、「昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい」、「地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ」において不満足度が高くなっています。

（単位：％）

地区	環境種別	環境項目	満足	やや満足	満足合計	普通	やや不満	不満	不満合計	無回答
大谷地区	生活環境	空気のきれいさ	10.9	17.4	28.3	54.3	6.5	2.2	8.7	8.7
		近くの川や水路など水のきれいさ	0.0	8.7	8.7	50.0	26.1	13.0	39.1	2.2
		騒音や振動などの静かさ	6.5	32.6	39.1	37.0	10.9	10.9	21.7	2.2
		ばい煙、臭い（悪臭）などの感覚	15.2	21.7	37.0	52.2	8.7	0.0	8.7	2.2
		土壌のきれいさ	6.5	13.0	19.6	69.6	6.5	0.0	6.5	4.3
	都市環境	まちの緑（緑地や街路樹など）の豊かさ	10.9	13.0	23.9	50.0	19.6	4.3	23.9	2.2
		ゆとりある空間（公園、広場）の豊かさ	4.3	28.3	32.6	47.8	15.2	2.2	17.4	2.2
		周辺のきれいさ（ごみの散乱などが無い）	13.0	19.6	32.6	50.0	8.7	6.5	15.2	2.2
		買物や交通の便利さ	13.0	23.9	37.0	23.9	23.9	13.0	37.0	2.2
		まちなみの美しさ	4.3	17.4	21.7	56.5	13.0	6.5	19.6	2.2
	自然環境	里山など自然の緑の豊かさ	4.3	8.7	13.0	52.2	26.1	6.5	32.6	2.2
		水の豊かさ（川、沼、湧水、地下水）	2.2	4.3	6.5	65.2	21.7	4.3	26.1	2.2
		農地や田園環境の豊かさ	4.3	8.7	13.0	58.7	21.7	4.3	26.1	2.2
		昆虫や野鳥など身近な生き物とのふれあい	2.2	15.2	17.4	50.0	23.9	6.5	30.4	2.2
		地元の農産品や加工品（地場産品）の豊富さ	4.3	6.5	10.9	52.2	30.4	4.3	34.8	2.2

②自身の住む周辺環境で改善すべき又は取り組むべき環境課題（問 8）（MA あてはまるものすべて）

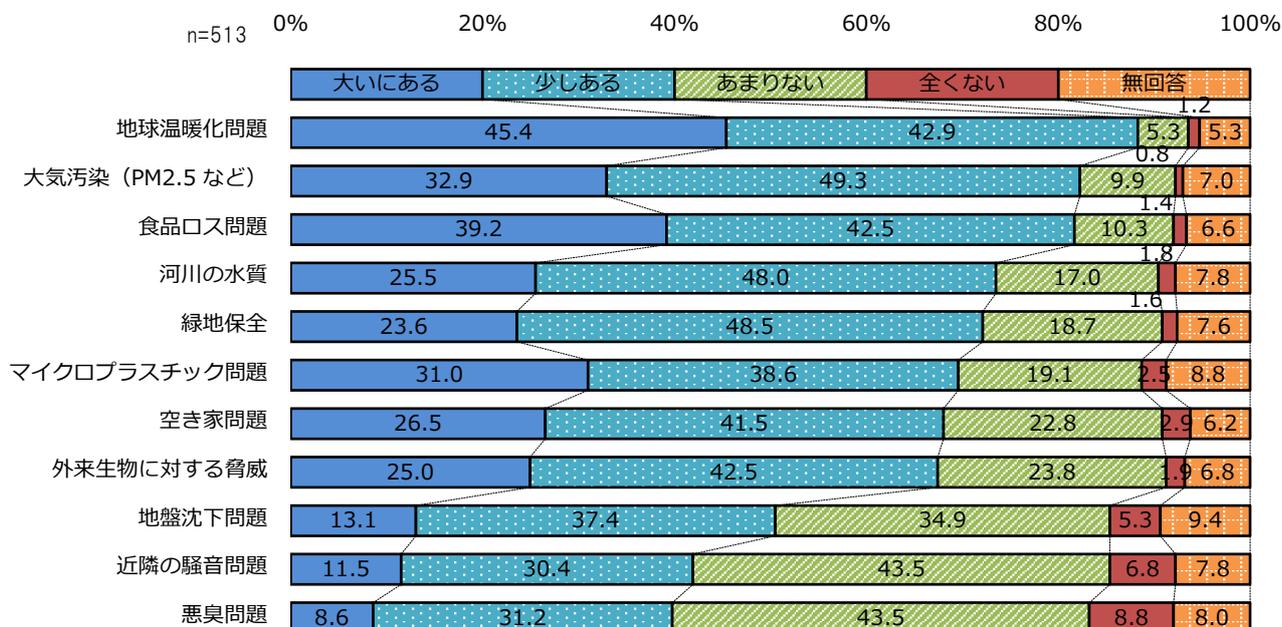
周辺環境で改善すべき又は取り組むべき環境課題としては、「空き缶、吸いがらなどのポイ捨て」が 33.1%と最も高く、次いで「まちなかの公園や自然が少ない」が 31.4%、「森林や里山の減少」が 27.7%となっています。



3) 環境への関心や取組について

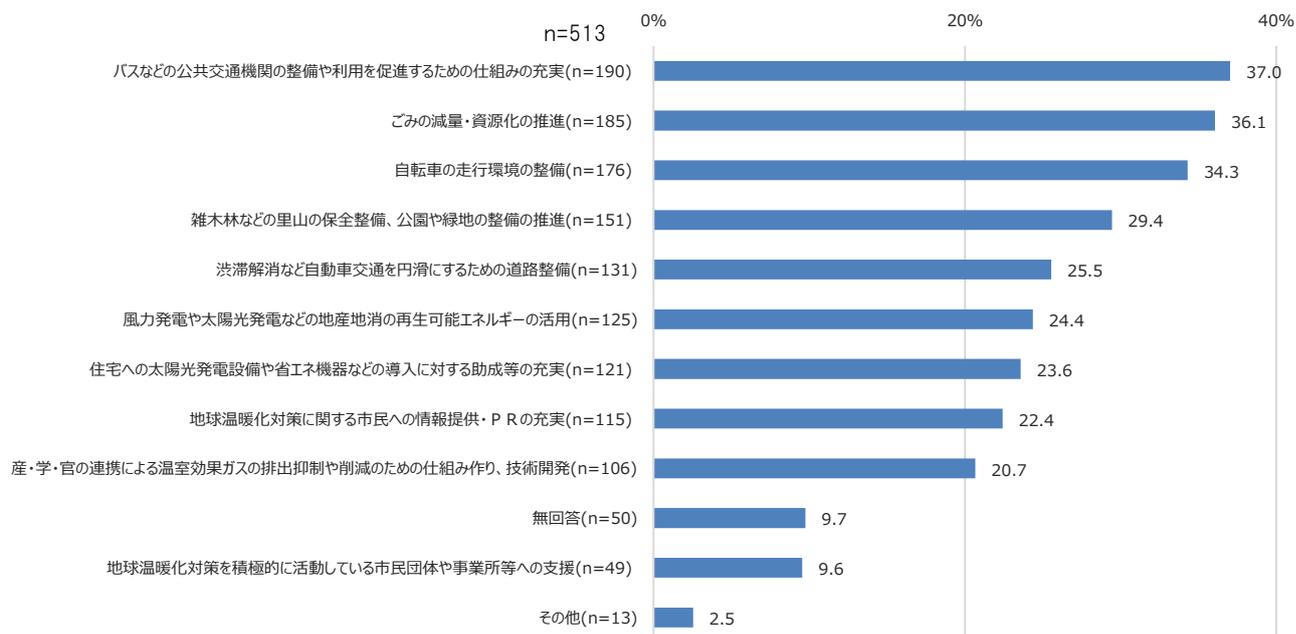
①-1 環境問題に対する関心度 (問9-1) (SA)

環境問題に対する関心度について、関心が「大いにある」と「少しある」の合計で見ると、「地球温暖化問題」が88.3%と最も高く、次いで「大気汚染 (PM2.5 など)」が82.2%、「食品ロス問題」81.7%となっています。



①-2 地球温暖化対策として市が重点的に進めるべき施策 (問9-2) (MA3 つまで)

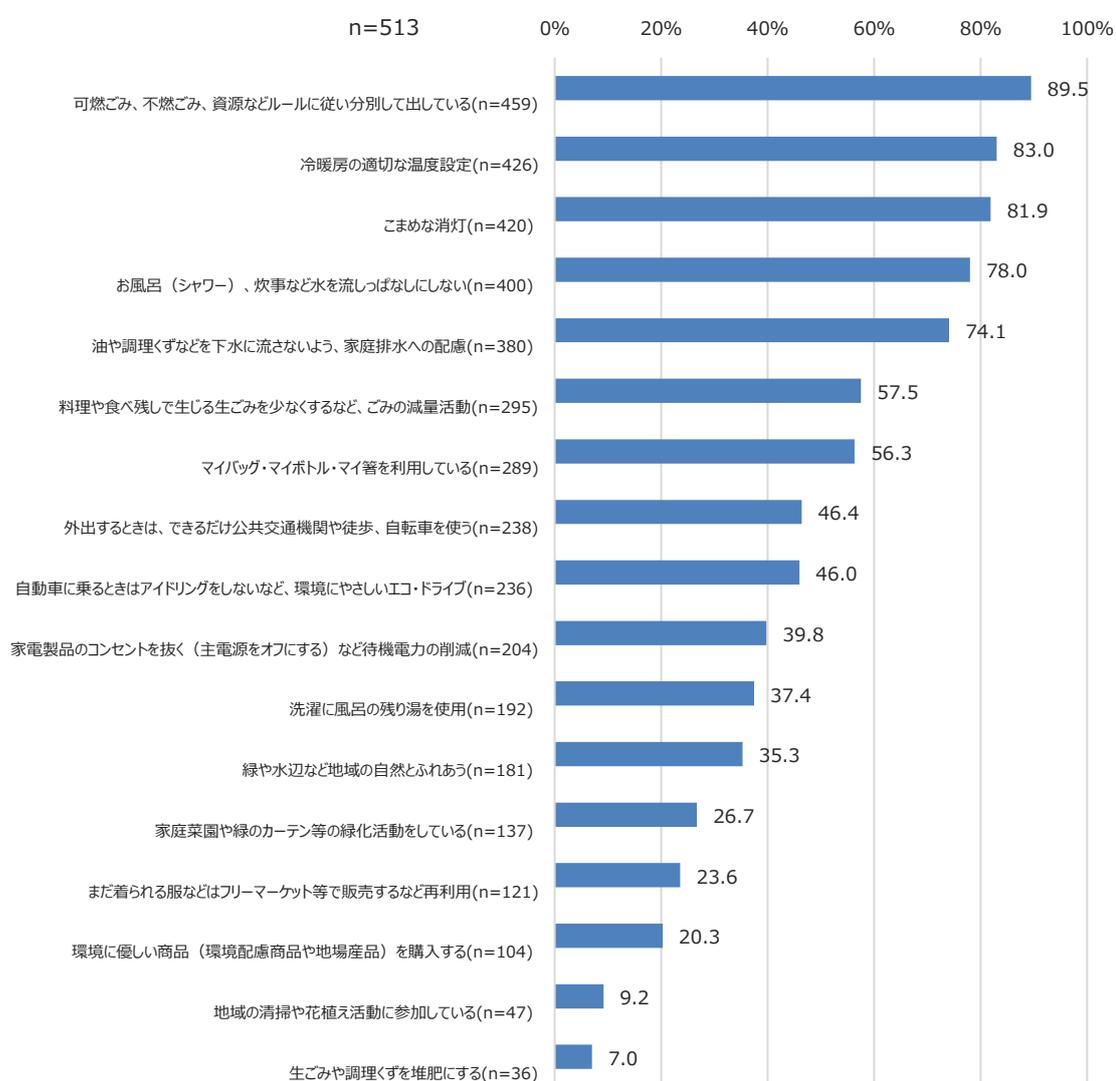
「地球温暖化問題」に関心が「大いにある」、「少しある」と回答した人の、地球温暖化対策として市が重点的に進めるべきと考える施策についてみると、「バスなどの公共交通機関の整備や利用を促進するための仕組みの充実」が37.0%と最も高く、次いで「ごみの減量・資源化の推進」が36.1%、「自転車の走行環境の整備」が34.3%となっています。



②-1 環境に関して普段取り組んでいること（問 10）（MA あてはまるものに○）

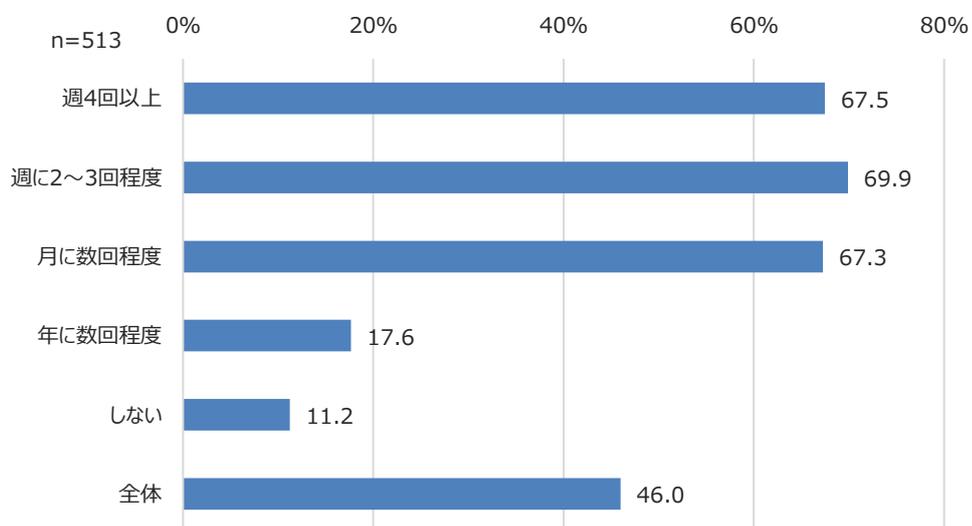
環境に関して普段取り組んでいることについてみると、「可燃ごみ、不燃ごみ、資源などルールに従い分別して出している」が 89.5%と最も高く、次いで「冷暖房の適切な温度設定」が 83.0%、「こまめな消灯」が 81.9%となっています。これら以外にも、「お風呂（シャワー）、炊事など水を流しっぱなしにしない」、「油や調理くずなどを下水に流さないよう、家庭排水への配慮」、「料理や食べ残しで生じる生ごみを少なくするなど、ごみの減量活動」、「マイバッグ・マイボトル・マイ箸を利用している」は半数以上の人に取り組んでいます。

一方、「生ごみや調理くずを堆肥にする」や「地域の清掃や花植え活動に参加している」は 1 割以下の回答となっています。



②-2 エコドライブの実施状況（クロス集計）

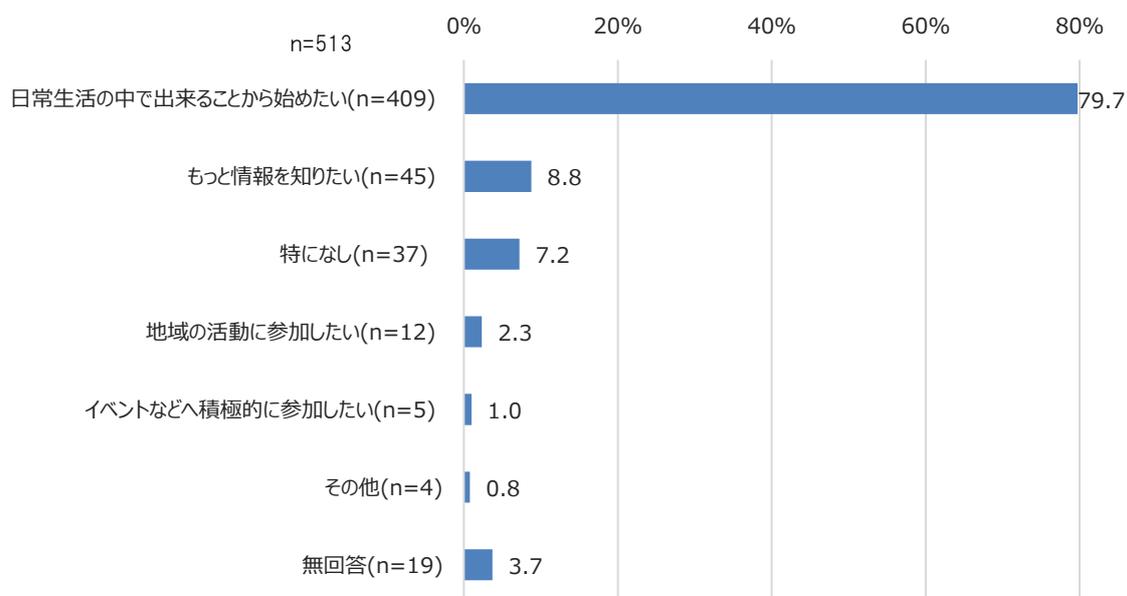
自動車の運転頻度ごとにエコドライブの実施状況についてみると、全体での割合は46.0%ですが、「月に数回以上」運転する人では、おおよそ7割の人がエコドライブを実施しています。



■ 自動車に乗るときはアイドリングをしないなど、環境にやさしいエコ・ドライブを実施している割合

③ 環境のために取組たいと思うこと（問 11）（SA）

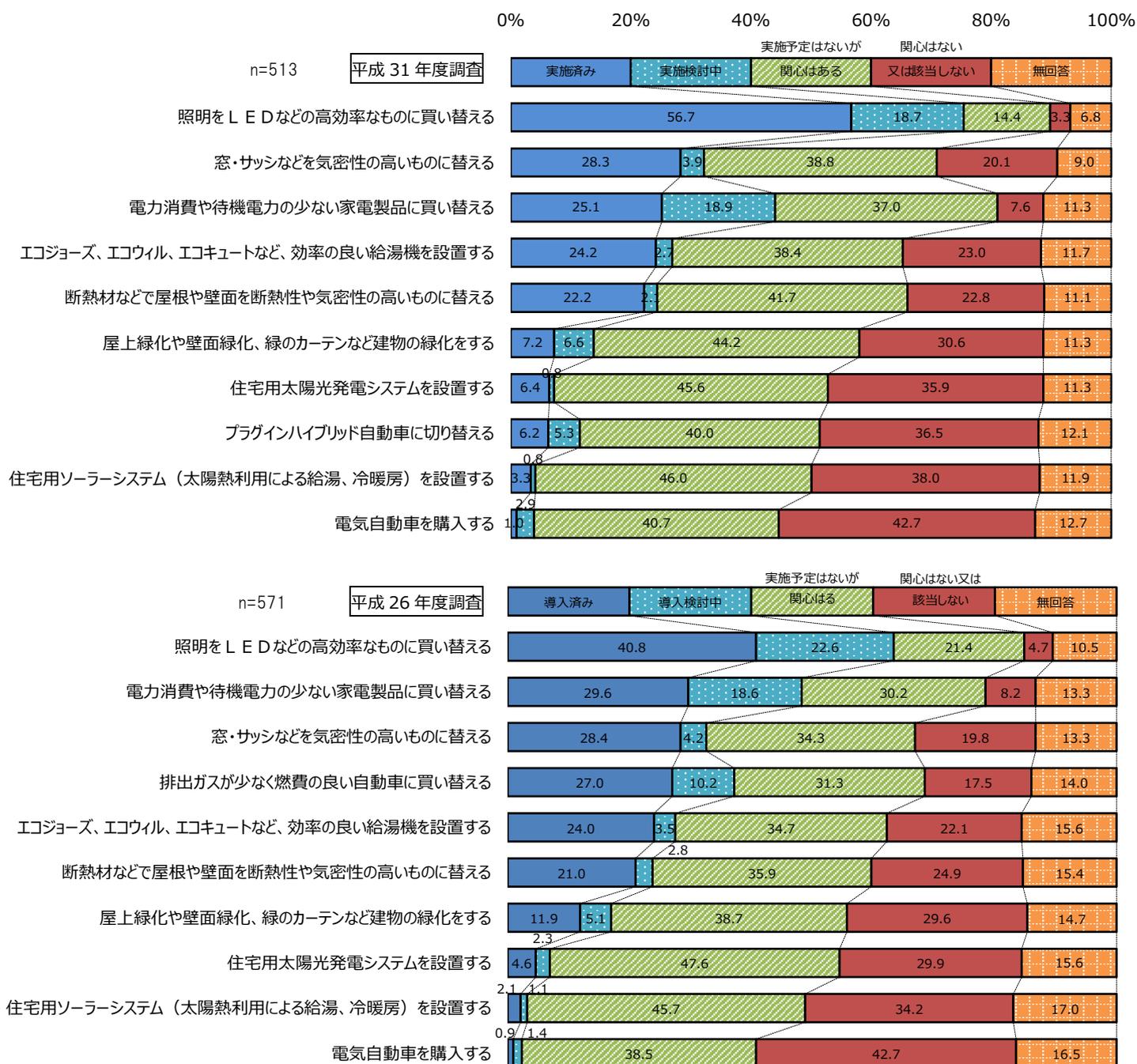
環境のために取組たいこととしては、「日常生活の中で出来ることから始めたい」が79.7%と最も高く、ついで「もっと情報を知りたい」が8.8%となっています。



④-1 環境対策の実施状況について（問 12）（SA）

環境対策の実施状況についてみると、『実施済み』の項目では、「照明をLEDなどの高効率なものに買い替える」が56.7%と最も高く、次いで「窓・サッシなどを気密性の高いものに替える」が28.3%、「電力消費や待機電力の少ない家電製品に買い替える」が25.1%となっています。また、『関心がない又は該当しない』についてみると、「電気自動車を購入する」が42.7%と最も高く、次いで「住宅用ソーラーシステム（太陽熱利用による給湯、冷暖房）を設置する」が38.0%、「プラグインハイブリッド自動車に切り替える」が36.5%となっています。

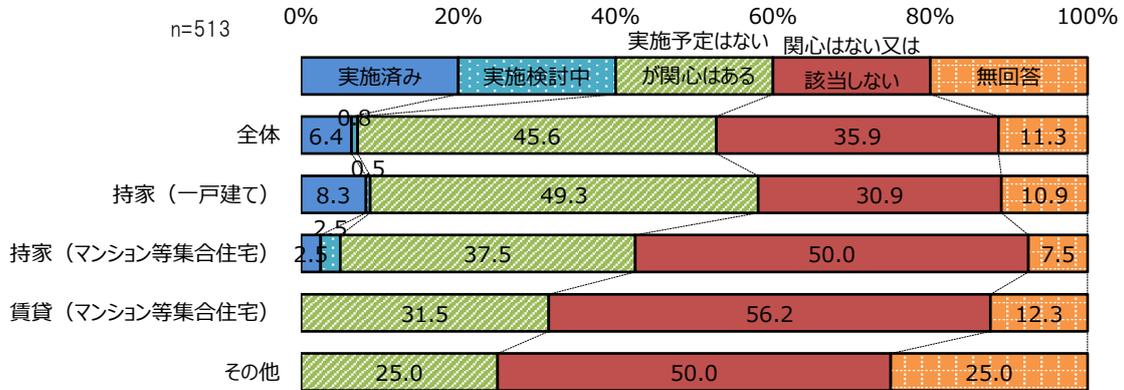
平成26年度調査の同様の調査と比べると、「照明をLEDなどの高効率なものに買い替える」の割合が40.8%から56.7%へ大きく伸びています。



④-2 居住形態別の環境対策の実施状況について（クロス集計）

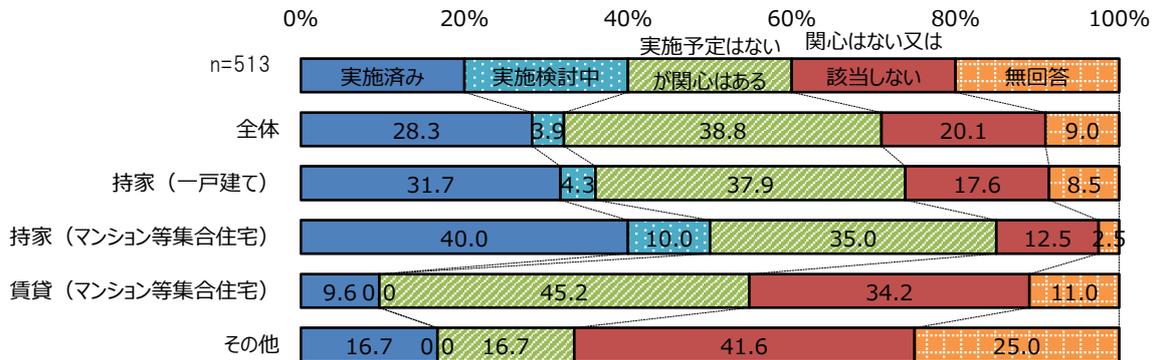
【住宅用太陽光発電システムの設置】

住宅用太陽光発電システムの設置について、居住形態別にみると、『実施済み』は「持家（一戸建て）」が8.3%と最も高く、『実施予定はないが関心はある』の割合も約5割と最も高くなっています。



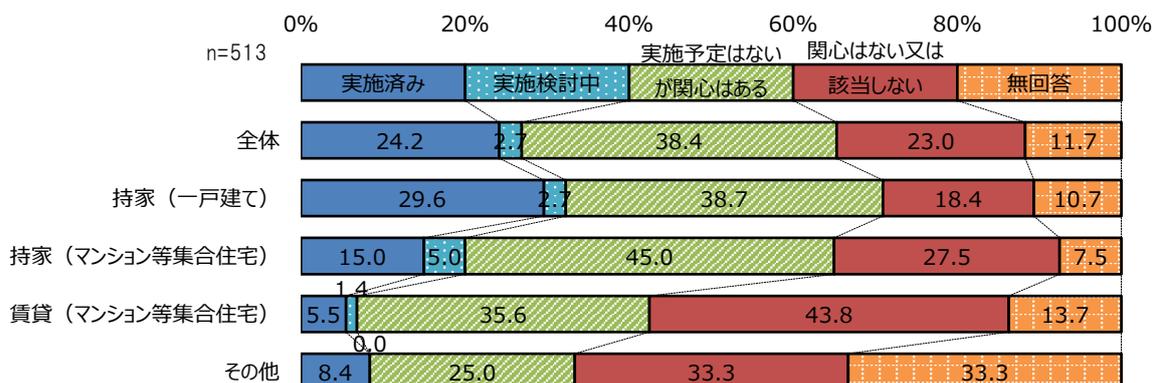
【窓・サッシなどを気密性の高いものに替える】

窓・サッシなどを気密性の高いものに替えるということについて、居住形態別にみると、『実施済み』は「持家（マンション等集合住宅）」が40.0%と最も高く、全体の28.3%に比べても高い割合となっています。



【エコジョーズ、エコウィル、エコキュートなど、効率の良い給湯機を設置する】

効率の良い給湯機の設置について、居住形態別にみると、『実施済み』は「持家（一戸建て）」が29.6%と最も高く、次いで「持家（マンション等集合住宅）」が15.0%となっています。

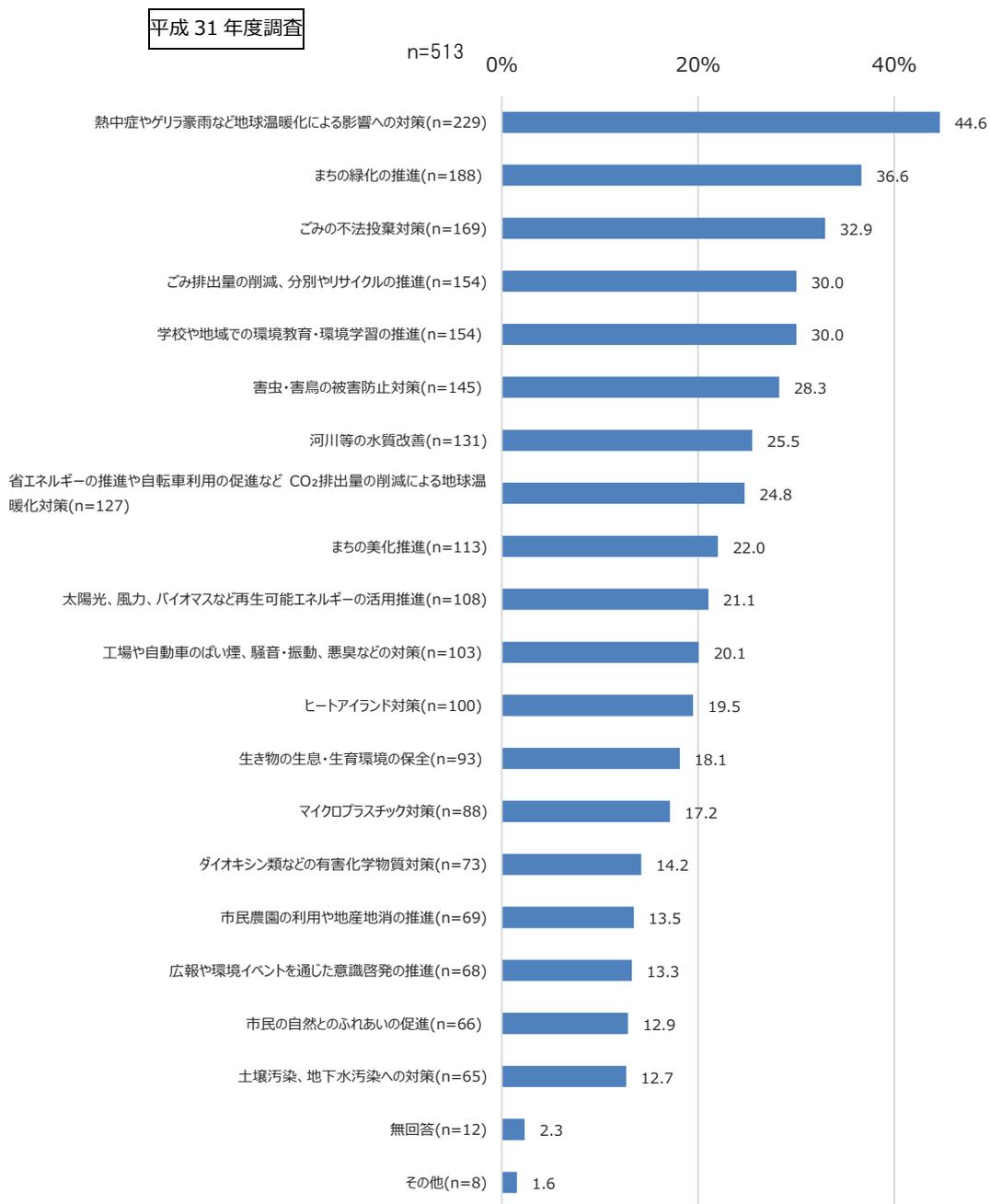


4) 市の環境への取組について

①市が重点的に取り組むべき環境対策について（問 13）（MA5 つまで）

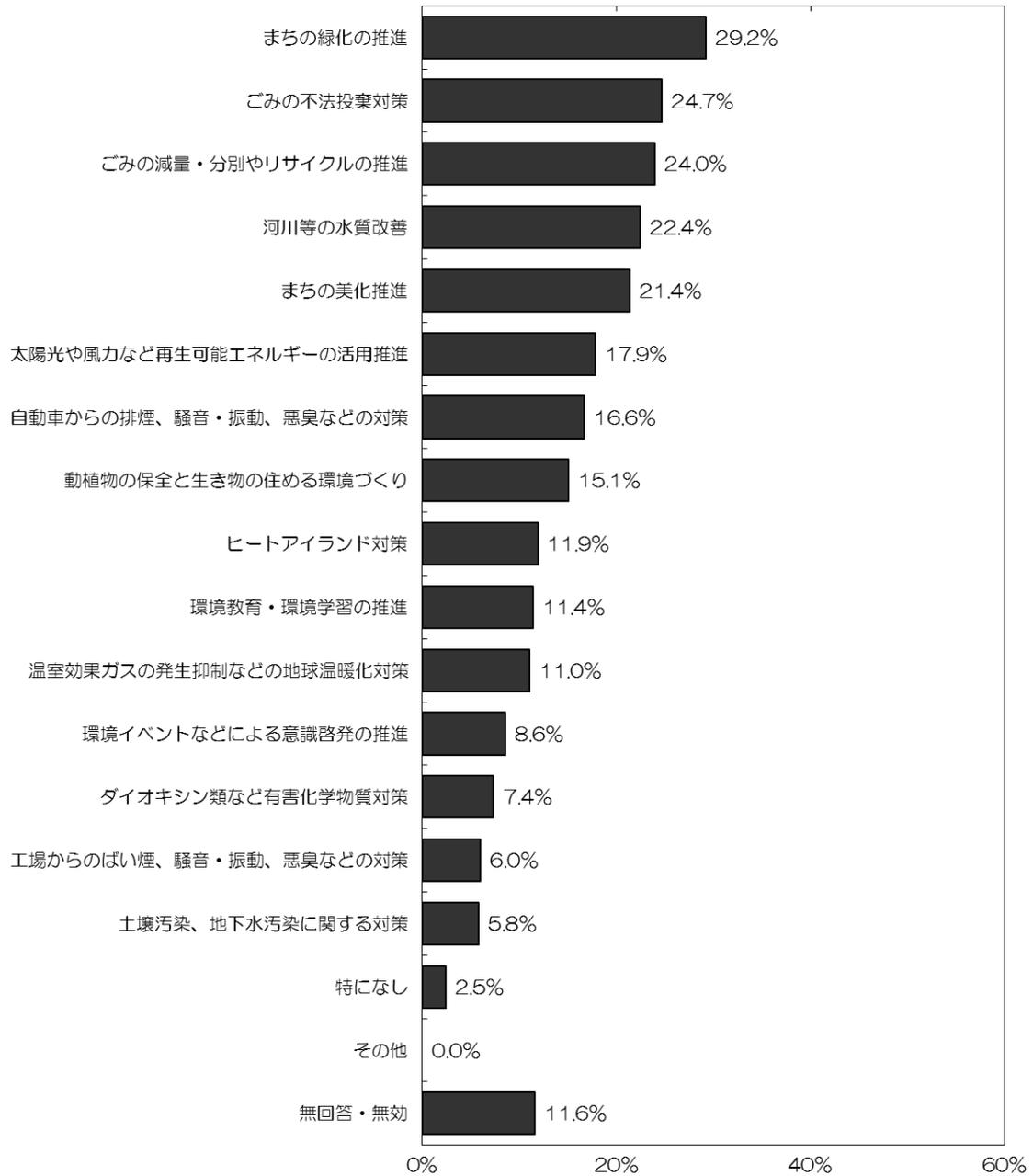
市が重点的に取り組むべき環境対策としては、「熱中症やゲリラ豪雨など地球温暖化による影響への対策」が 44.6%と最も高く、次いで「まちの緑化の推進」が 36.6%、その他、「ごみの不法投棄対策」、「ごみ排出量の削減、分別やリサイクルの推進」及び「学校や地域での環境教育・環境学習の推進」が 30%台となっています。

平成 26 年度調査と比べると、回答項目や回答選択数の変更により、単純な比較はできませんが、新たに項目を追加した「熱中症やゲリラ豪雨など地球温暖化による影響への対策」、「学校や地域での環境教育・環境学習の推進」の割合が高くなっており、関心の高さがうかがわれます。



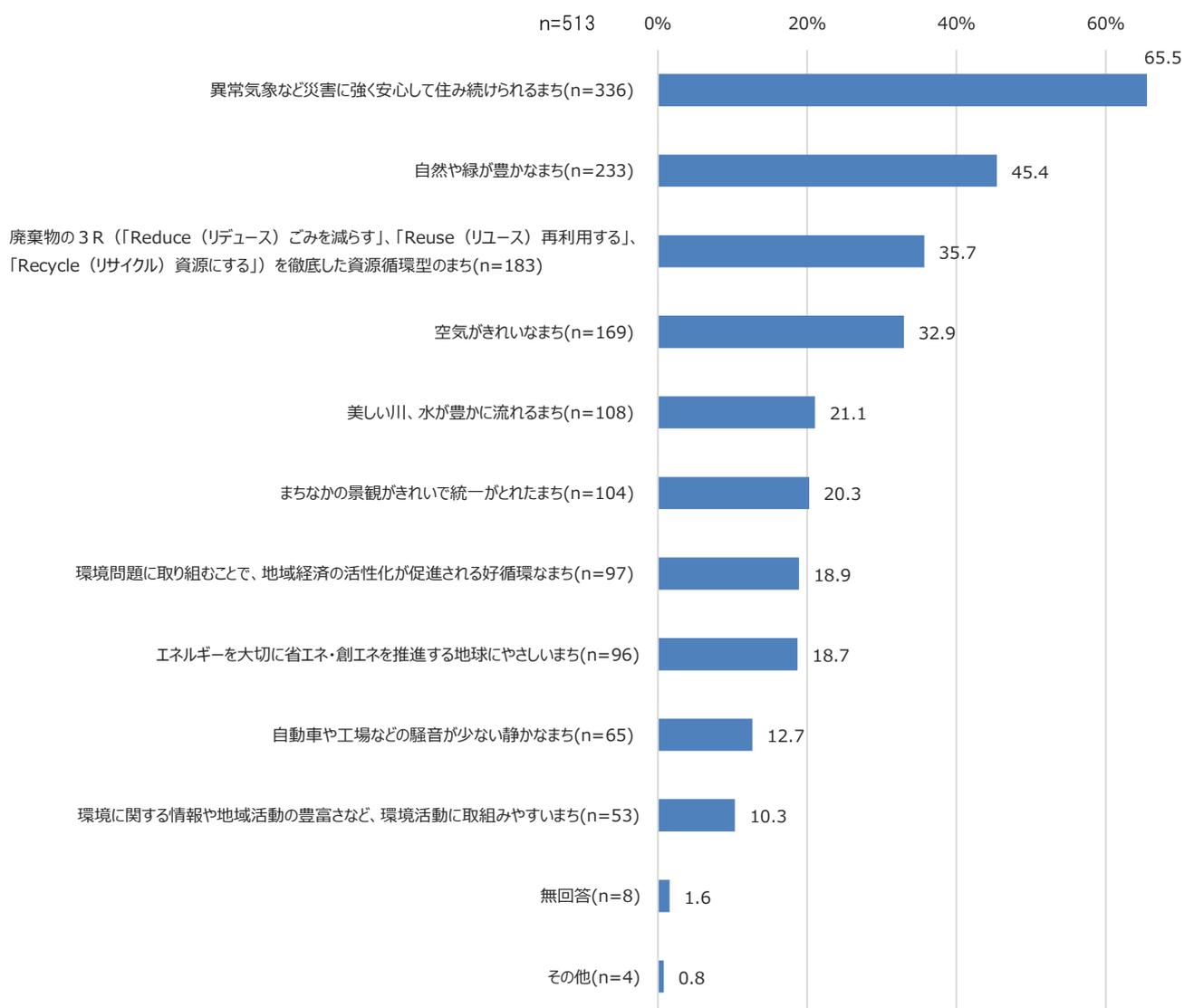
平成 26 年度調査

(N=571)



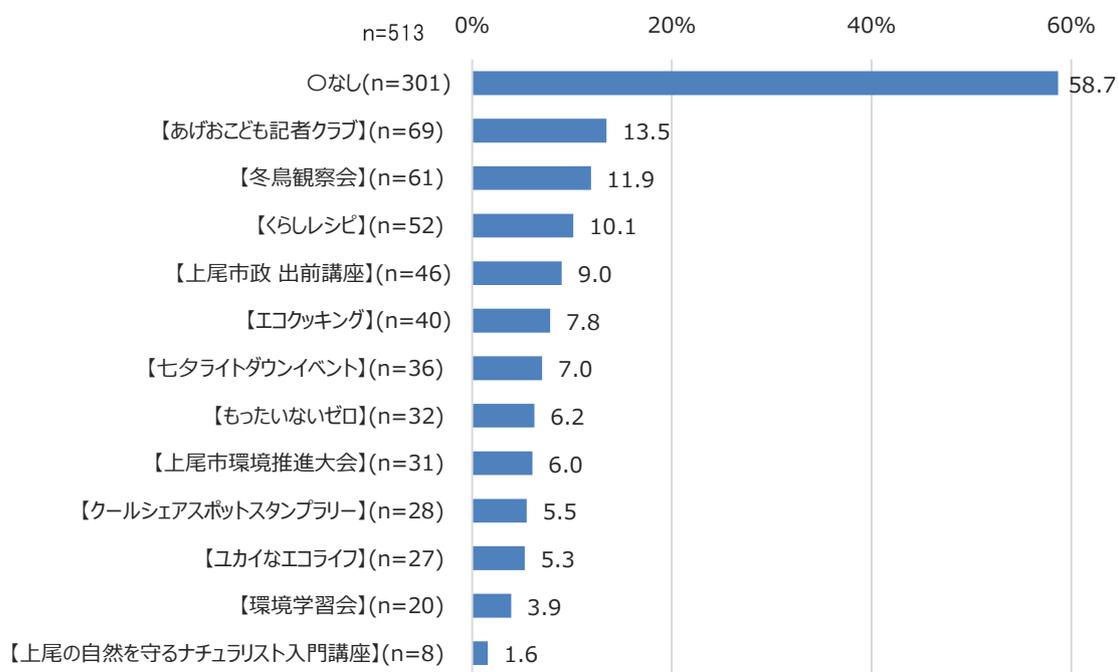
②上尾市の環境のあるべき姿について（問 14）（MA3 つまで）

上尾市の環境のあるべき姿については、「異常気象など災害に強く安心して住み続けられるまち」が 65.5%と最も高く、他の項目と比較しても割合が高くなっています。次いで割合が高いのは「自然や緑が豊かなまち」が 45.4%、「廃棄物の 3R（「Reduce（リデュース）ごみを減らす」、「Reuse（リユース）再利用する」、「Recycle（リサイクル）資源にする」）を徹底した資源循環型のまち」が 35.7%となっています。



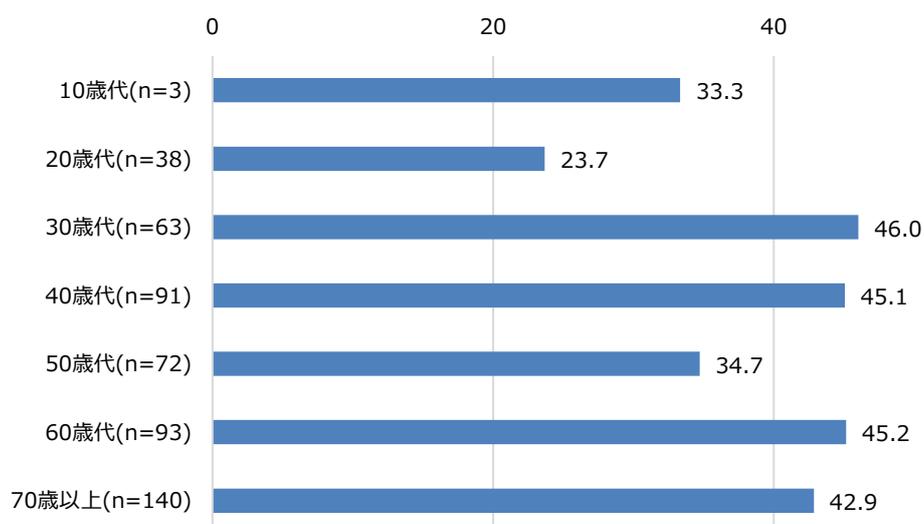
③-1 市の実施する環境のイベントや取組の認知度（問 15）（知っているものに○）

市の実施する環境のイベントや取組の認知度についてみると、12の取組のうち1つでも知っているものがある人は41.3%、すべて知らない人は58.7%となっています。最も認知度の高いものは、「あげおこども記者クラブ」で13.5%、次いで「冬鳥観察会」11.9%となっています。



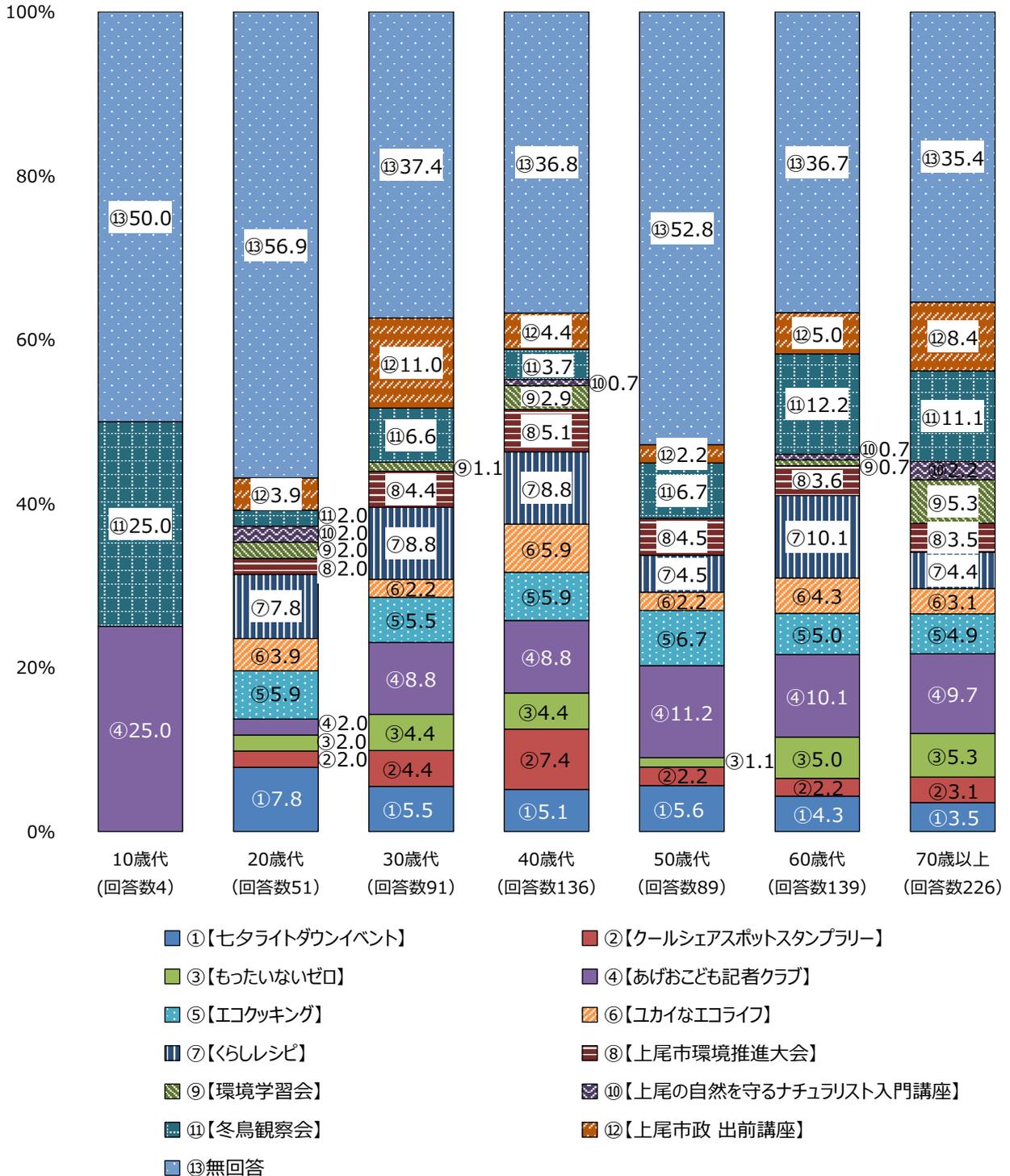
③-2 市の実施する環境イベントを1つでも知っている人の年代別割合（クロス集計）

市の実施する環境イベントや取組の認知度について、『1つでも知っている人』の年代別の状況についてみると、「10歳代」、「20歳代」、「50歳代」の割合が他の年代に比べ低くなっています。



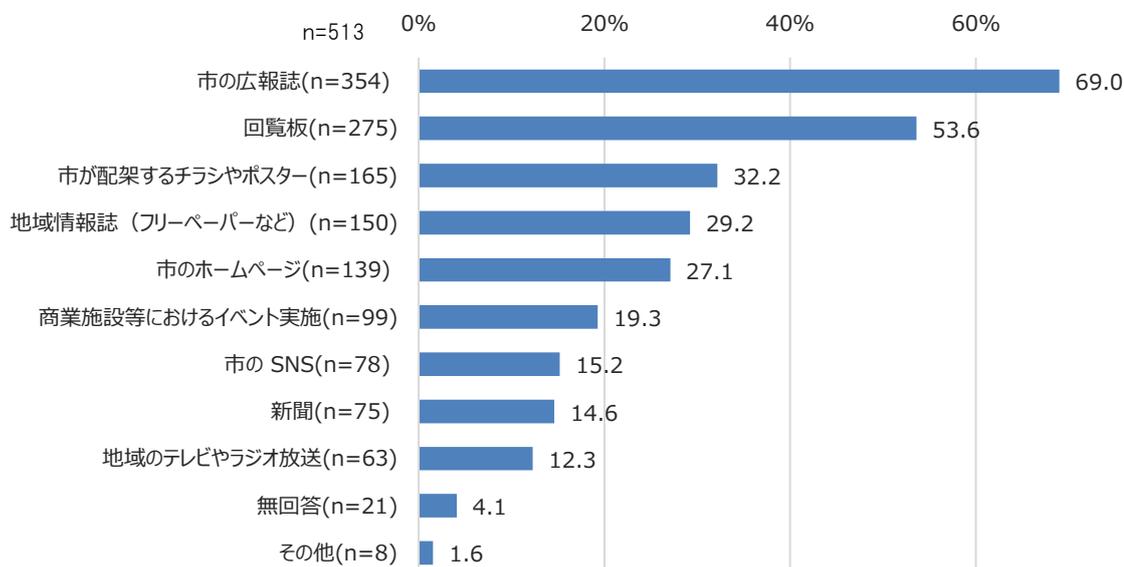
③-3 年齢別の市の実施する環境イベントや取組の認知度（クロス集計 回答数ベース）

市の実施する環境イベントや取組の認知度について、年齢別の回答数の割合でみると、『10歳代』では、「あげおこども記者クラブ」「冬鳥観察会」の割合が最も高く、『20歳代』では「七タライトダウンイベント」「くらしレシピ」、『30歳代』では「上尾市政出前講座」、『40歳代』では「あげおこども記者クラブ」「くらしレシピ」、『50歳代』では「あげおこども記者クラブ」、『60歳代』『70歳代』では「冬鳥観察会」がそれぞれ最も高い割合となっています。（総回答数 736）



④-1 市の環境情報の有効な発信手法について（問 16）（MA あたりはまるものすべて）

市の環境情報を入手する場合の有効な媒体についてみると、「市の広報誌」が 69.0%と最も高く、次いで「回覧板」53.6%、「市が配架するチラシやポスター」が 32.2%となっています。



年齢別の市の環境情報を入手する場合の手法については、「市の広報誌」や「回覧板」が各年代を通して割合が高くなっています。

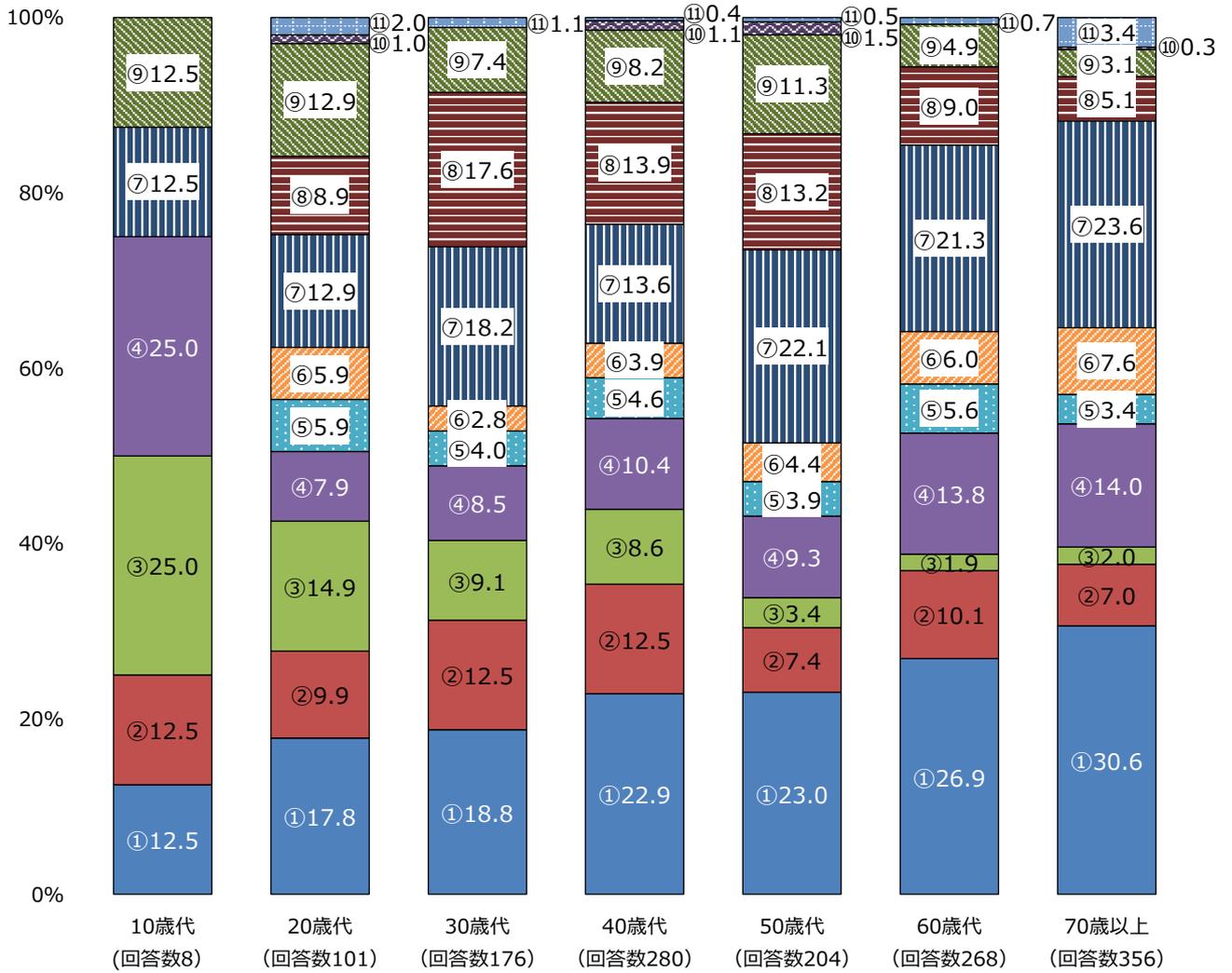
広報媒体別の傾向として、「市の広報誌」や「回覧板」においては 50 歳代以上の割合が高く、「市の SNS」では 10 歳代から 20 歳代の割合が高く、「地域情報誌（フリーペーパーなど）」では 30 歳代～40 歳代の割合が高くなっています。広報媒体の発信方法や内容の違いにより、若者、ファミリー層、高齢者など、情報を届けるターゲットとなる年代に違いが見られます。

【市の環境情報を入手する場合の手法】

(%)

	市の広報誌	市のホームページ	市の SNS	市が配架するチラシやポスター	地域のテレビやラジオ放送	新聞	回覧板	地域情報誌（フリーペーパーなど）	商業施設等におけるイベント実施	その他	無回答
全体 (回答数1393)	24.8	9.7	5.5	11.6	4.4	5.3	19.3	10.5	6.9	0.6	1.5
10歳代 (回答数8)	12.5	12.5	25.0	25.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0
20歳代 (回答数101)	17.8	9.9	14.9	7.9	5.9	5.9	12.9	8.9	12.9	1.0	2.0
30歳代 (回答数176)	18.8	12.5	9.1	8.5	4.0	2.8	18.2	17.6	7.4	0.0	1.1
40歳代 (回答数280)	22.9	12.5	8.6	10.4	4.6	3.9	13.6	13.9	8.2	1.1	0.4
50歳代 (回答数204)	23.0	7.4	3.4	9.3	3.9	4.4	22.1	13.2	11.3	1.5	0.5
60歳代 (回答数268)	26.9	10.1	1.9	13.8	5.6	6.0	21.3	9.0	4.9	0.0	0.7
70歳以上 (回答数356)	30.6	7.0	2.0	14.0	3.4	7.6	23.6	5.1	3.1	0.3	3.4

※項目ごとに上位 3 つの年代まで着色

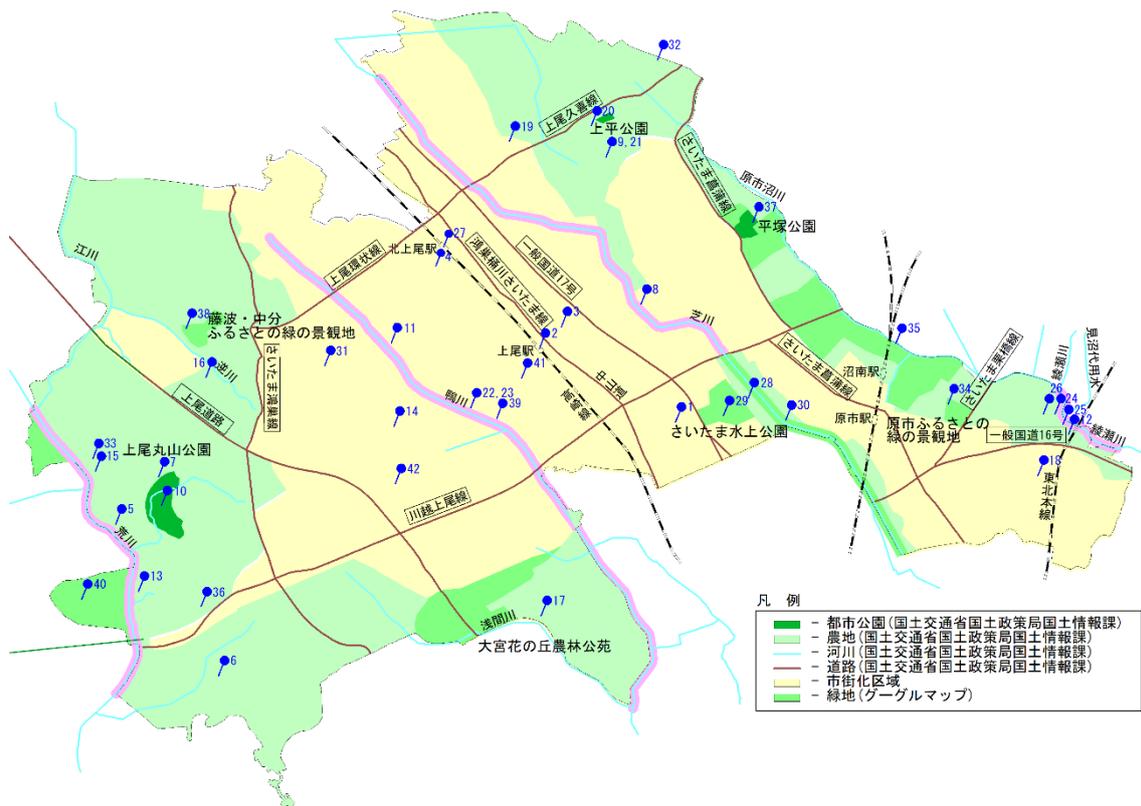


- ①市の広報誌
- ②市のホームページ
- ③市の SNS
- ④市が配架するチラシやポスター
- ⑤地域のテレビやラジオ放送
- ⑥新聞
- ⑦回覧板
- ⑧地域情報誌（フリーペーパーなど）
- ⑨商業施設等におけるイベント実施
- ⑩その他
- ⑪無回答

⑤上尾市で孫世代まで残したい場所・風景（問 17）（自由記入）

孫世代まで残したい場所・風景としては、174人（33.9%）からの意見があり、最も回答が多いものは「上尾丸山公園」で、約4割の人が回答しています。その他にも『公園』としては、「上尾運動公園」、「さいたま水上公園」、「上平公園」といった回答が多くみられました。また、『風景』としては、「荒川沿い」、「鴨川沿い」、「文化センターの桜並木」などといった回答が挙げられています。また、行事に関する回答もあり、上尾花火大会、平方どろいんきょ、畔吉ささら獅子舞といった回答がみられました。

【孫世代まで残したい場所・風景】



場所			
1	上尾運動公園	15	榎本牧場
2	上尾駅	16	大石の雑木林
3	上尾駅から市役所までの街路樹	17	大宮花の丘農林公苑
4	上尾高校	18	尾山台遺跡
5	上尾サイクリングロード西	19	上平小学校
6	上尾市健康プラザわくわくランド	20	上平中学校
7	上尾市自然学習館	21	上平公園
8	上尾市文化センターの桜並木	22	鴨川河川敷
9	上尾市民球場	23	鴨川沿いの桜
10	上尾丸山公園	24	瓦葺中学校周辺の見沼代用水、 田んぼの風景
11	浅間台大公園	25	瓦葺掛樋跡
12	綾瀬川河川敷	26	瓦葺公園
13	荒川河川敷	27	北上尾駅
14	今泉の十連寺	28	埼玉アイスアリーナ
		29	さいたま水上公園
		30	芝川河川敷
		31	下芝水辺公園
		32	菅谷と伊奈町の境界の田園地帯
		33	殿山聖地墓苑
		34	原市ふるさとの緑の景観地
		35	原市沼
		36	平方の馬蹄寺
		37	平塚公園
		38	藤波・中分ふるさとのみどりの景観地
		39	富士見親水公園
		40	三ツ又沼ビオトープ
		41	谷津観音堂
		42	ゆりが丘公園

⑥環境にかかわる自由意見

160人(31.1%)の方より環境への意見がありました。年齢別の回答割合をみると、『40歳代』が22.5%と最も高く、次いで『70歳以上』21.9%、『60歳代』17.5%となっています。幅広い年代から様々な意見が寄せられています。

『20歳代』の主な意見としては、「ごみ拾いのボランティアがあれば参加したい」など環境美化に関する回答がありました。

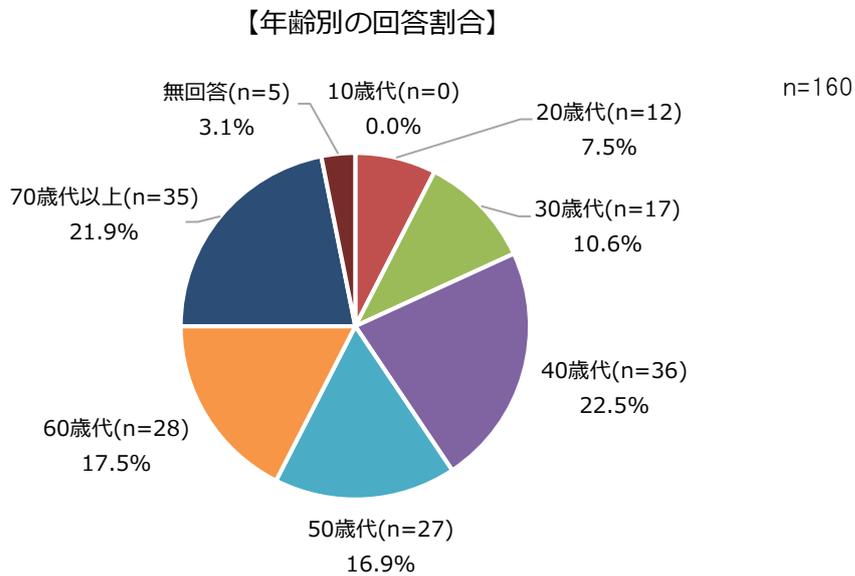
『30歳代』の主な意見としては、「子どもの思い出になるような環境の取組を行ってほしい」や「学校の授業で環境問題を取り扱ってほしい」など子どもを通じた環境への取組意識がうかがわれました。

『40歳代』では、「バスの利便性の向上(渋滞解消)」や「公園を増やしてほしい」、「子どもが遊べる場所が欲しい」など、日常生活の改善に対する意見が見られました。

『50歳代』では「リサイクル活動の推進」や「ごみの分別の徹底」といった意見が見られ、資源循環型社会への関心の高さがうかがわれました。

『60歳代』では「以前に比べ、虫や鳥などが少なくなった」や「道路や公園の周りがごみ置き場になっている」といった意見が見られ、地域を良くしたいという意識がうかがわれました。

『70歳代以上』では、「市民の環境への関心を高める取組を行う」や「市の環境対策を市民へアピール」といった意見が見られ、市の環境対策への期待がうかがわれました。

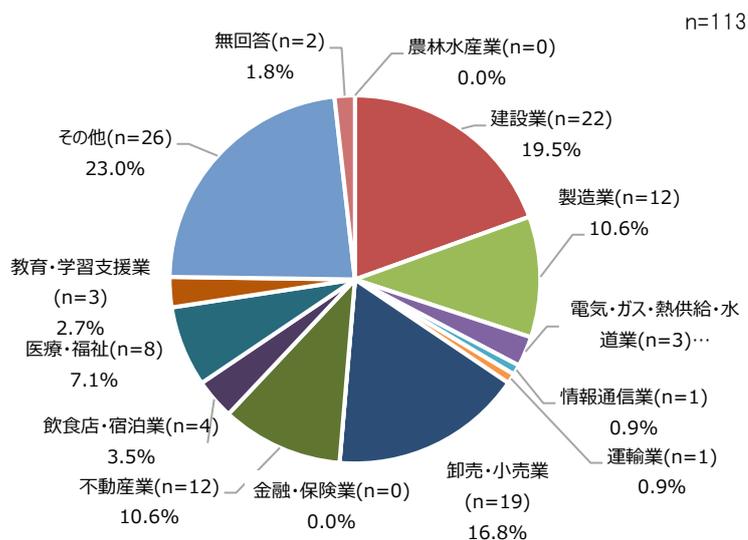


3. 事業者アンケート調査結果

1) 事業所の属性

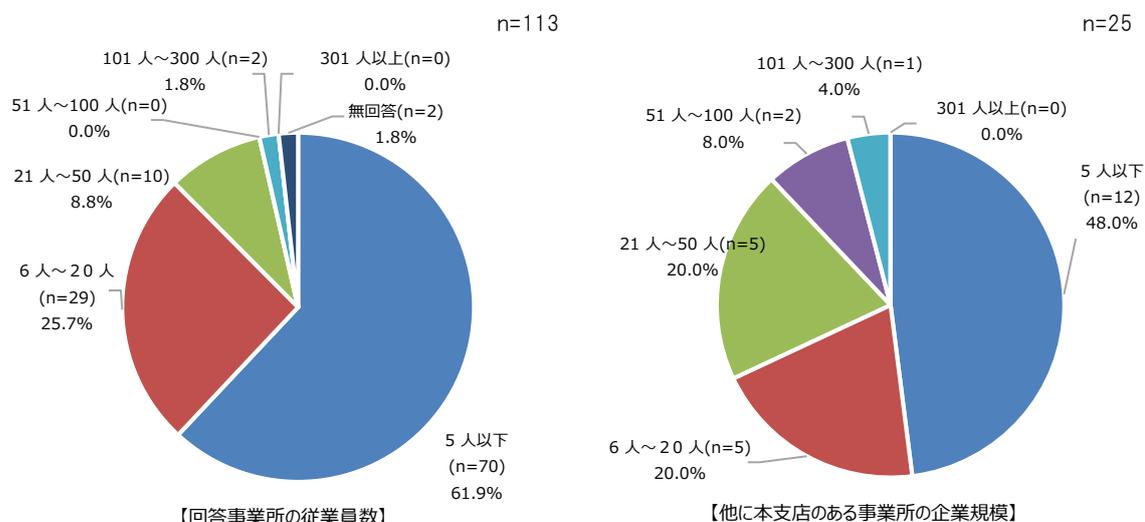
①業種 (問 1) (SA)

回答事業所の業種についてみると、「その他」の割合が 23.0%と一番多くなっており、次いで「建設業」19.5%、「卸売・小売業」16.8%となっています。「その他」の内訳についてみると、サービス業が7事業所で最も多く、印刷業、経済団体などとなっています。「農林水産業」、「金融・保険業」は該当ありませんでした。



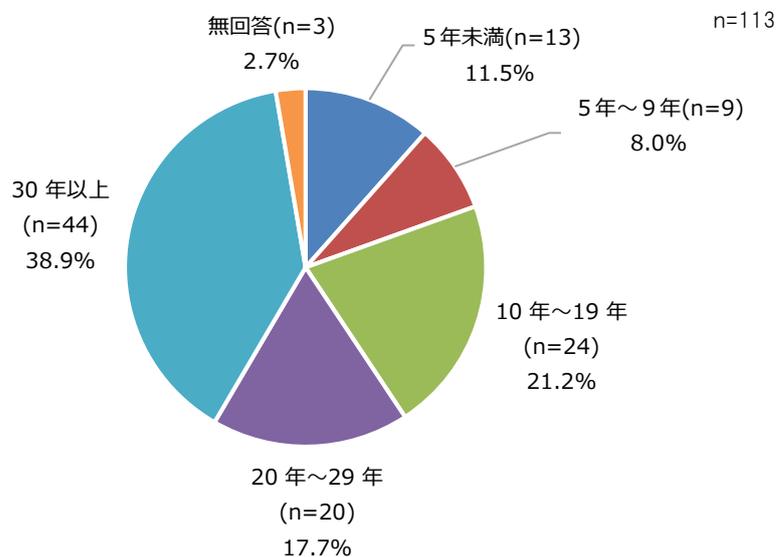
②従業員数 (問 2-1、問 2-2) (SA)

事業所単位の従業員数についてみると、「5人以下」が 61.9%で最も多く、次いで「6人～20人」が 25.7%、「21人～50人」が 8.8%となっています。他に本支店のある事業所は 25 事業所あり、企業規模についてみると、「5人以下」が 48.0%と最も多く、「6人～20人」が 20.0%、「21人～50人」が 20.0%となっています。



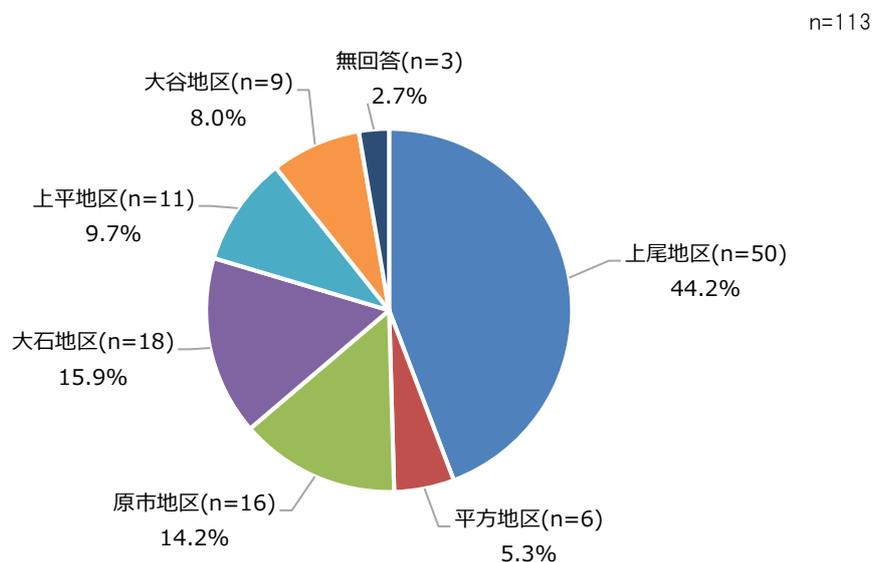
③市内での開業年数（問3）（SA）

市内での開業年数についてみると、「30年以上」が38.9%と最も多く、次いで「10年～19年」が21.2%、「20年～29年」が17.7%となっています。



④事業所の所在地区（問4）（SA）

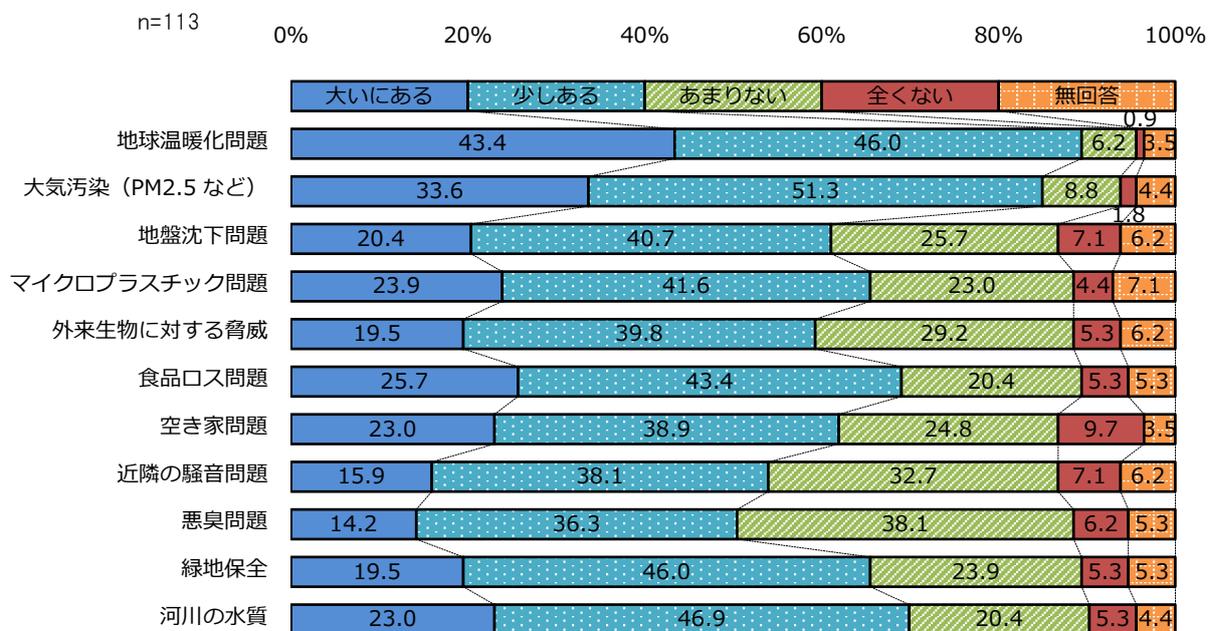
事業所の所在地区についてみると、「上尾地区」が44.2%と最も高く、次いで「大石地区」が15.9%、「原市地区」が14.2%となっています。



2) 事業所の環境への関心や取り組みについて

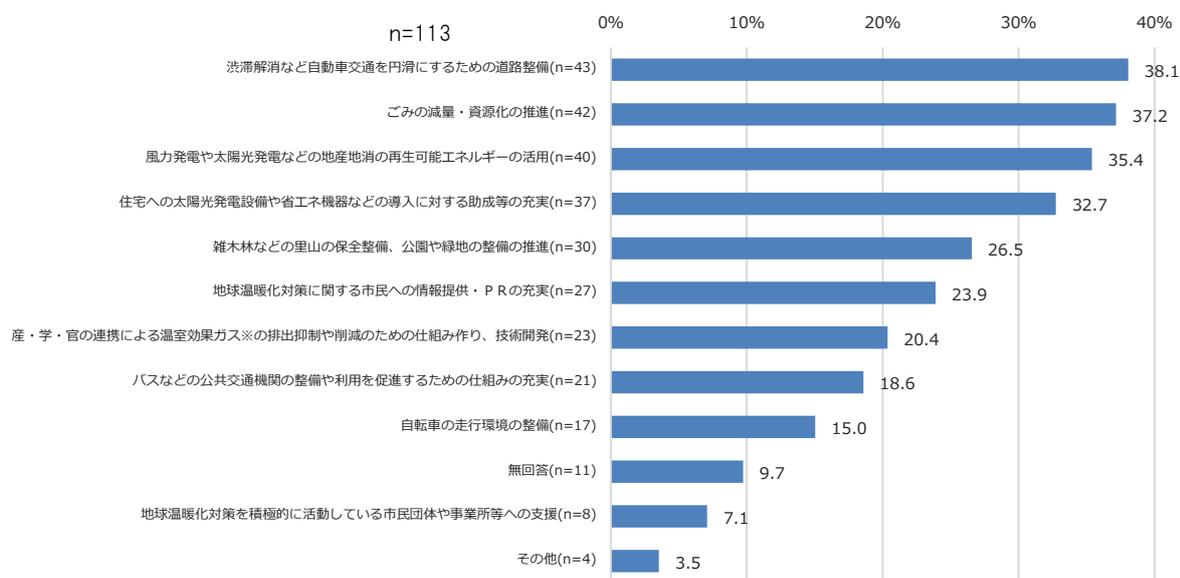
①-1 環境問題への関心度 (問 5-1) (SA)

環境問題への関心度についてみると、『大いにある』項目としては、「地球温暖化問題」が43.4%と最も高く、次いで「大気汚染」が33.6%、「食品ロス問題」が25.7%となっています。「地球温暖化問題」、「大気汚染」については、『少しある』も含めると、8割以上の事業所が「関心がある」と回答しています。



①-2 地球温暖化対策として市が重点的に進めること (問 5-2) (MA 回答 3 つまで)

問 5-1 において、地球温暖化問題に「関心がある」と回答した事業所において、市が重点的に進めるべき地球温暖化対策としては、「渋滞解消など自動車交通を円滑にするための道路整備」が38.1%で最も高く、次いで「ごみの減量・資源化の推進」が37.2%、「風力発電や太陽光発電などの地産地消の再生可能エネルギーの活用」が35.4%となっています。



①-3 業種別の環境問題への関心度（クロス集計）

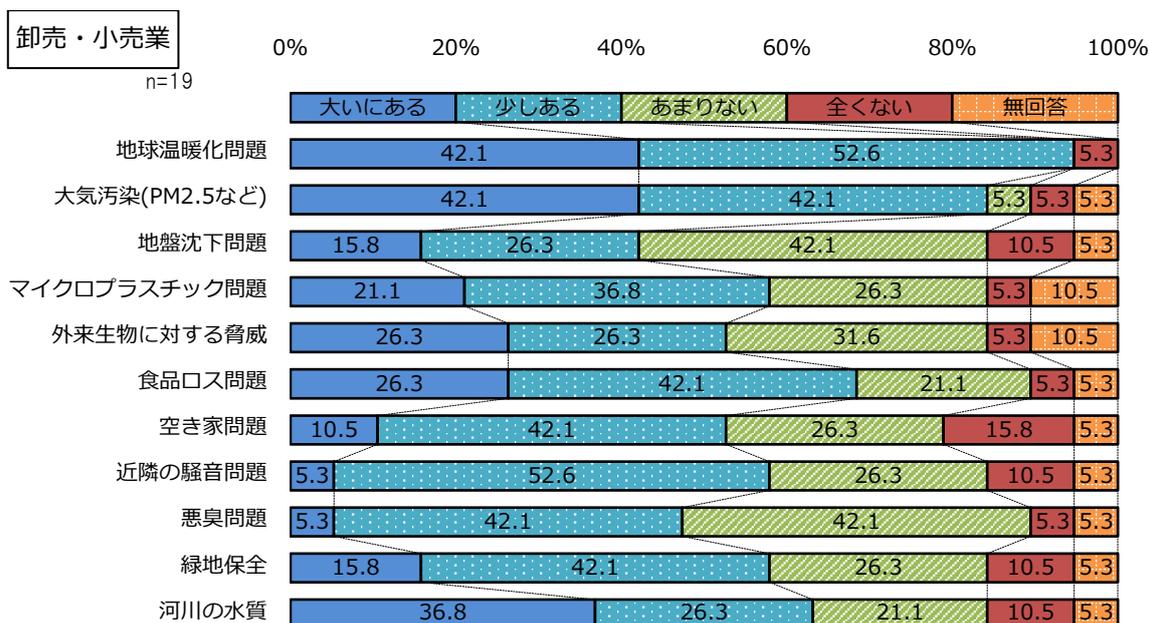
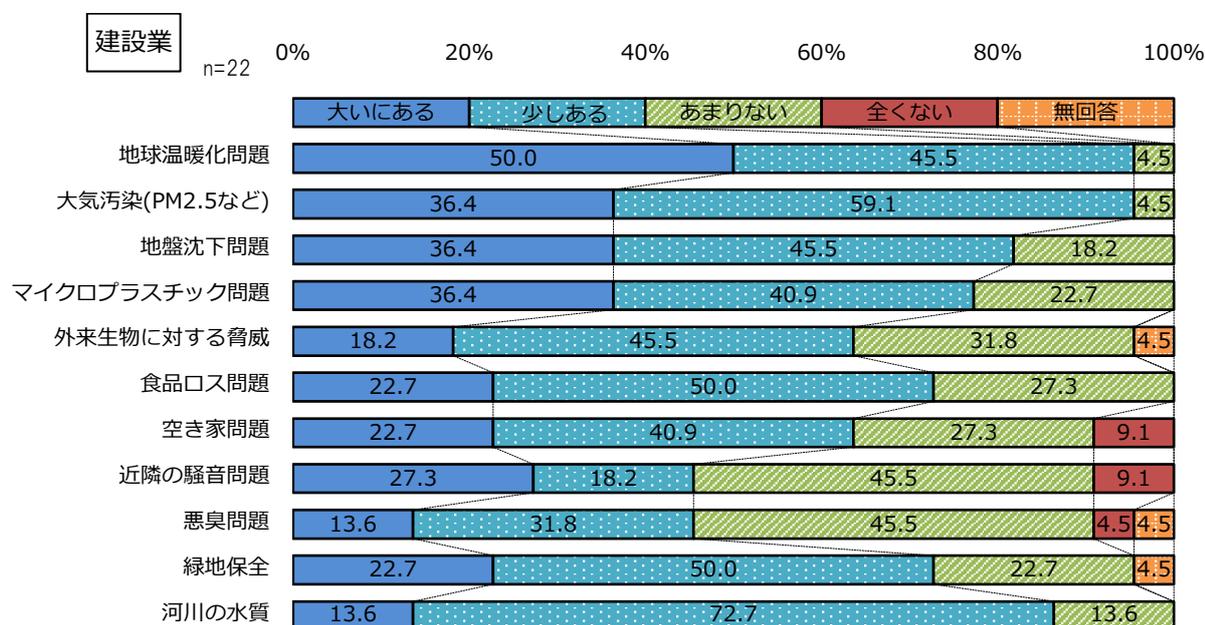
8 事業所以上の回答があった業種について、業種ごとに環境問題への関心度（「大いにある」の割合）についてみると、『建設業』では「地球温暖化問題」への関心が高くなっています。

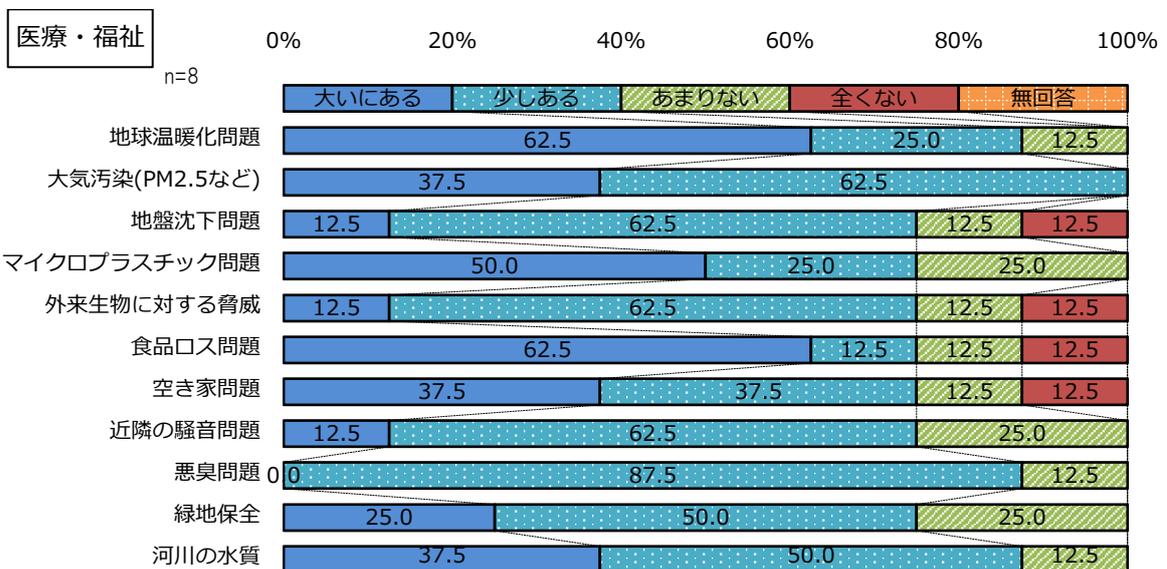
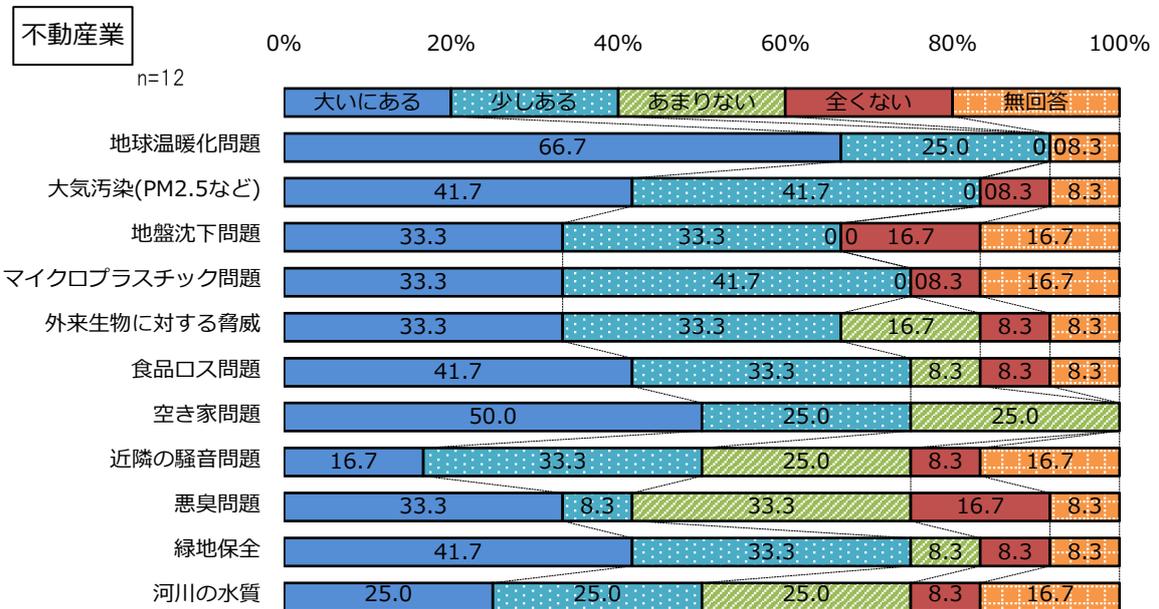
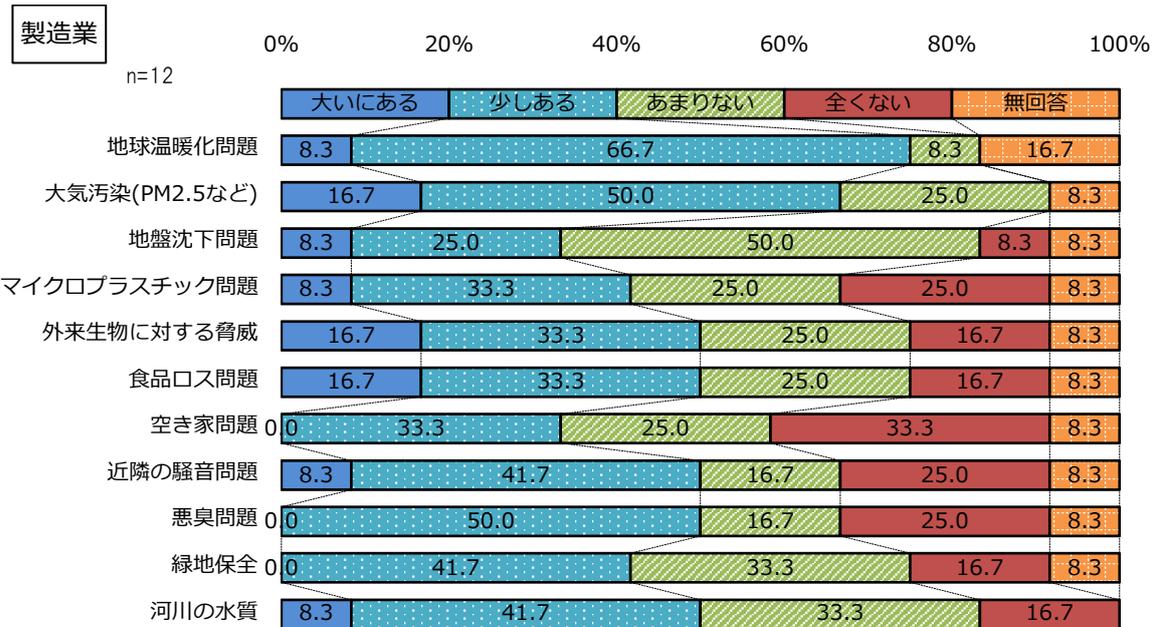
『卸売・小売業』では「地球温暖化問題」、「大気汚染」への関心が高くなっています。

『製造業』では、「大いにある」の割合が他の業種に比べて総じて低くなっており、特に関心の高い項目はありません。

『不動産業』では「地球温暖化問題」、「空き家問題」、「大気汚染」、「食品ロス問題」、「緑地保全」への関心が高くなっています。

『医療・福祉』では「地球温暖化問題」、「食品ロス問題」、「マイクロプラスチック問題」への関心が高くなっています。

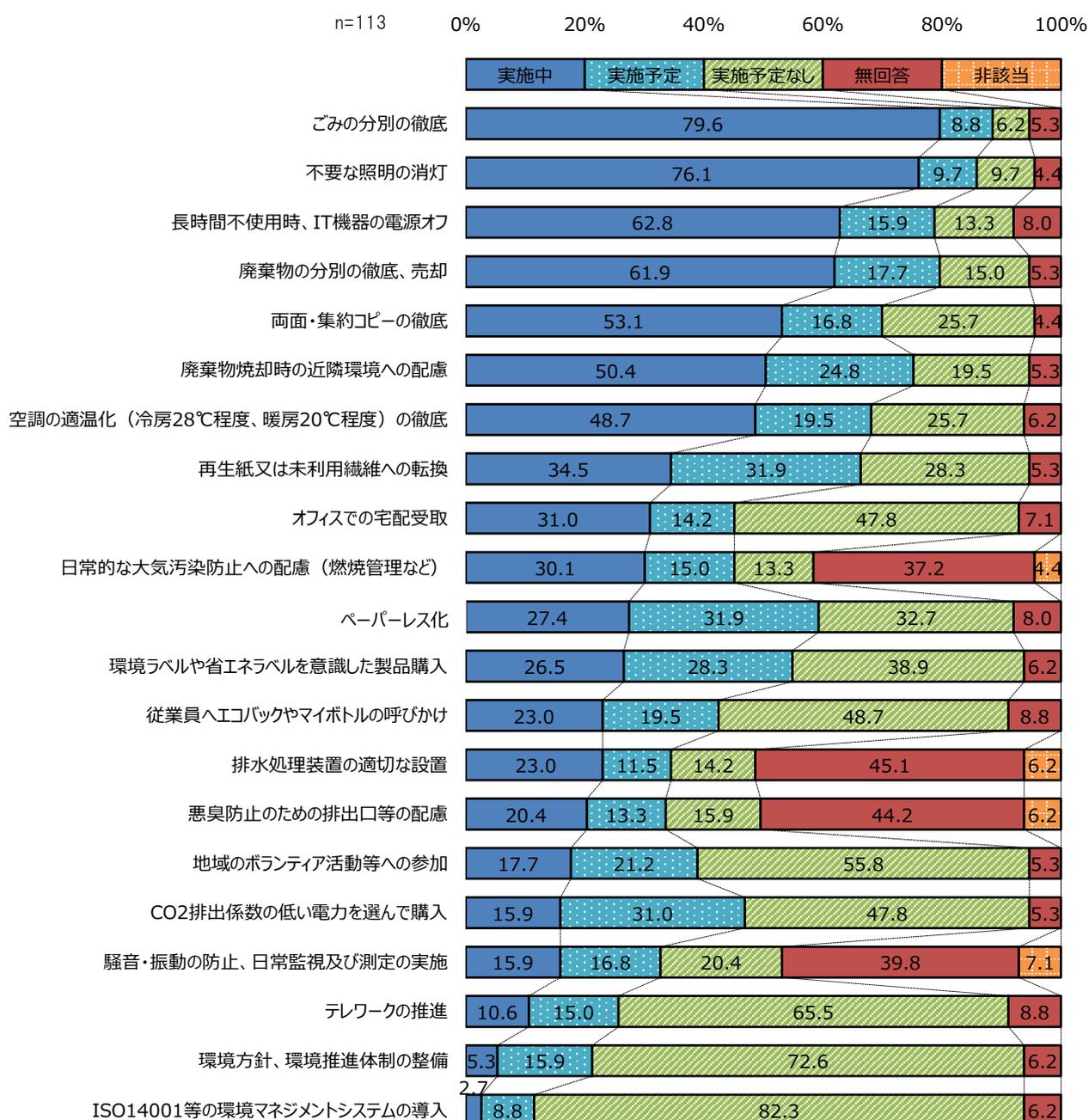




②-1 日常的な環境活動の実施状況（問6）（SA）

日常的な環境活動の実施についてみると、『実施中』では、「ごみの分別の徹底」が79.6%と最も高く、次いで「不要な照明の消灯」が76.1%、「長時間不使用時、IT機器の電源オフ」が62.8%となっています。その他にも、「廃棄物の分別の徹底、売却」、「両面・集約コピーの徹底」、「廃棄物焼却時の近隣環境への配慮」は半数以上の事業所において実施中となっています。

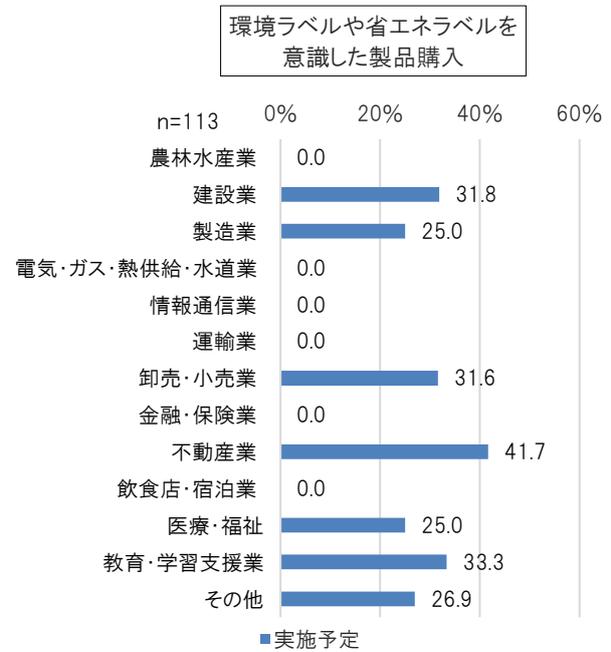
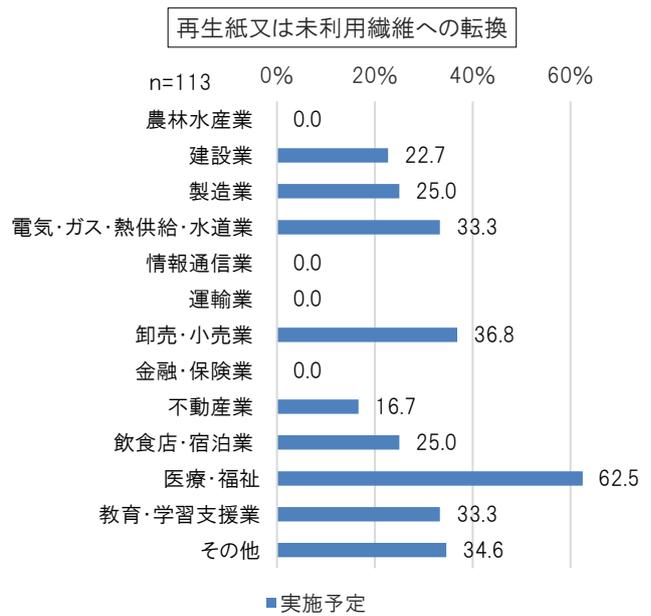
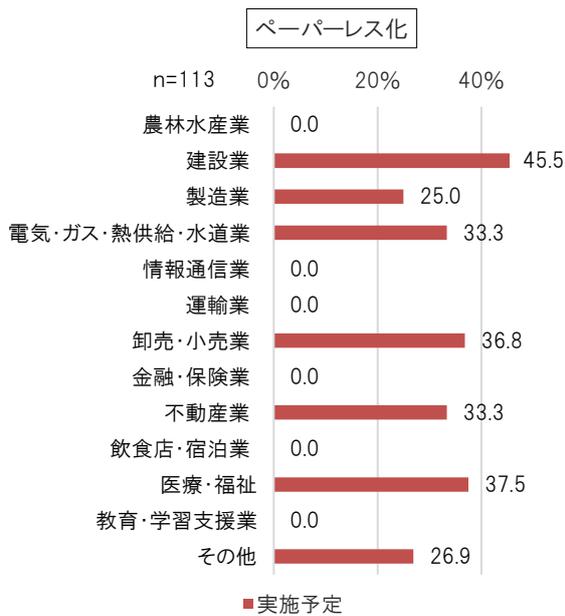
また、『実施予定』についてみると、「再生紙又は未利用繊維への転換」、「ペーパーレス化」がともに31.9%で最も高く、次いで「CO₂排出係数の低い電力を選んで購入」が31.0%、「環境ラベルや省エネラベルを意識した製品購入」が28.3%となっており、グリーン購入や環境に配慮したサービス利用への意識が高まっています。



②-2 業種別の日常的な環境活動への実施予定（クロス集計）

日常的な環境活動として、『実施予定』の回答割合が高かった項目について、業種別に割合をみると、『ペーパーレス化』では、「建設業」が45.5%と最も高くなっています。

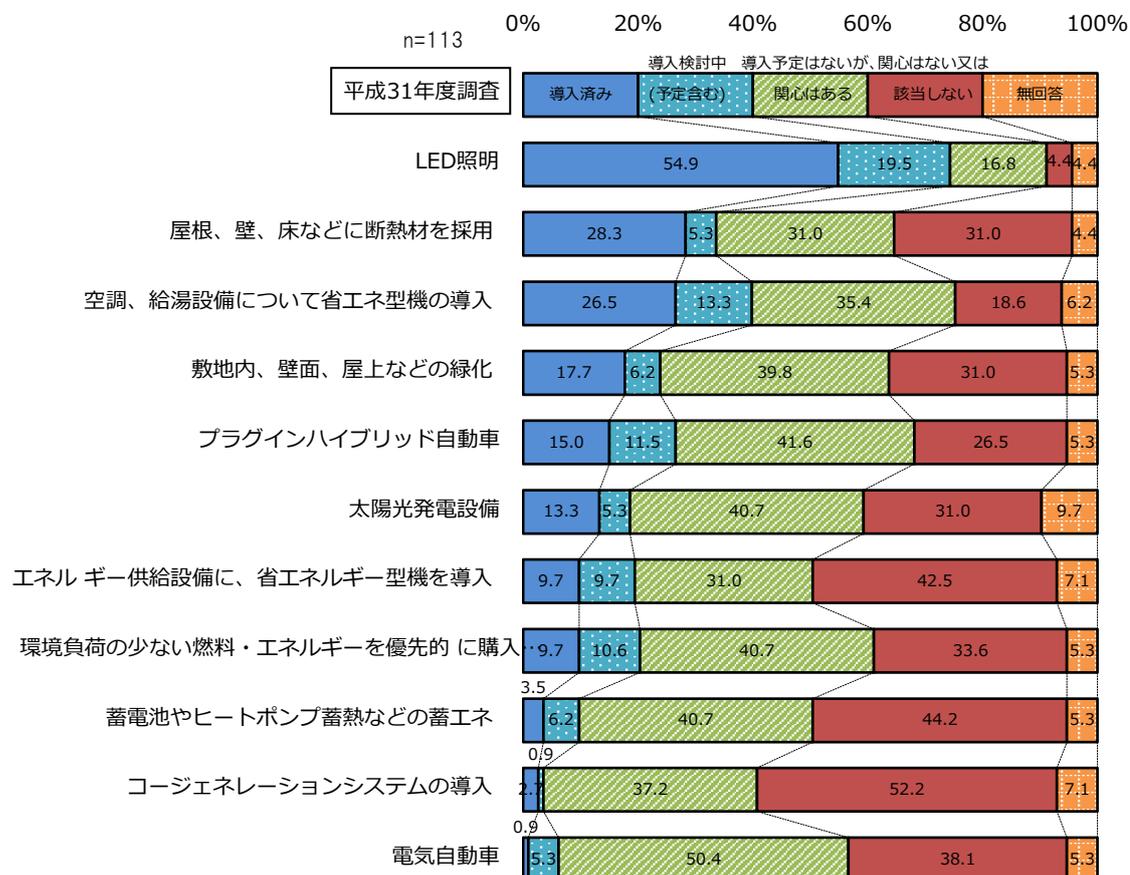
また、『再生紙又は未利用繊維への転換』では「医療・福祉」が62.5%で最も高く、『CO₂排出係数の低い電力を選んで購入』では「製造業」が、「環境ラベルや省エネラベルを意識した製品購入」では「不動産業」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

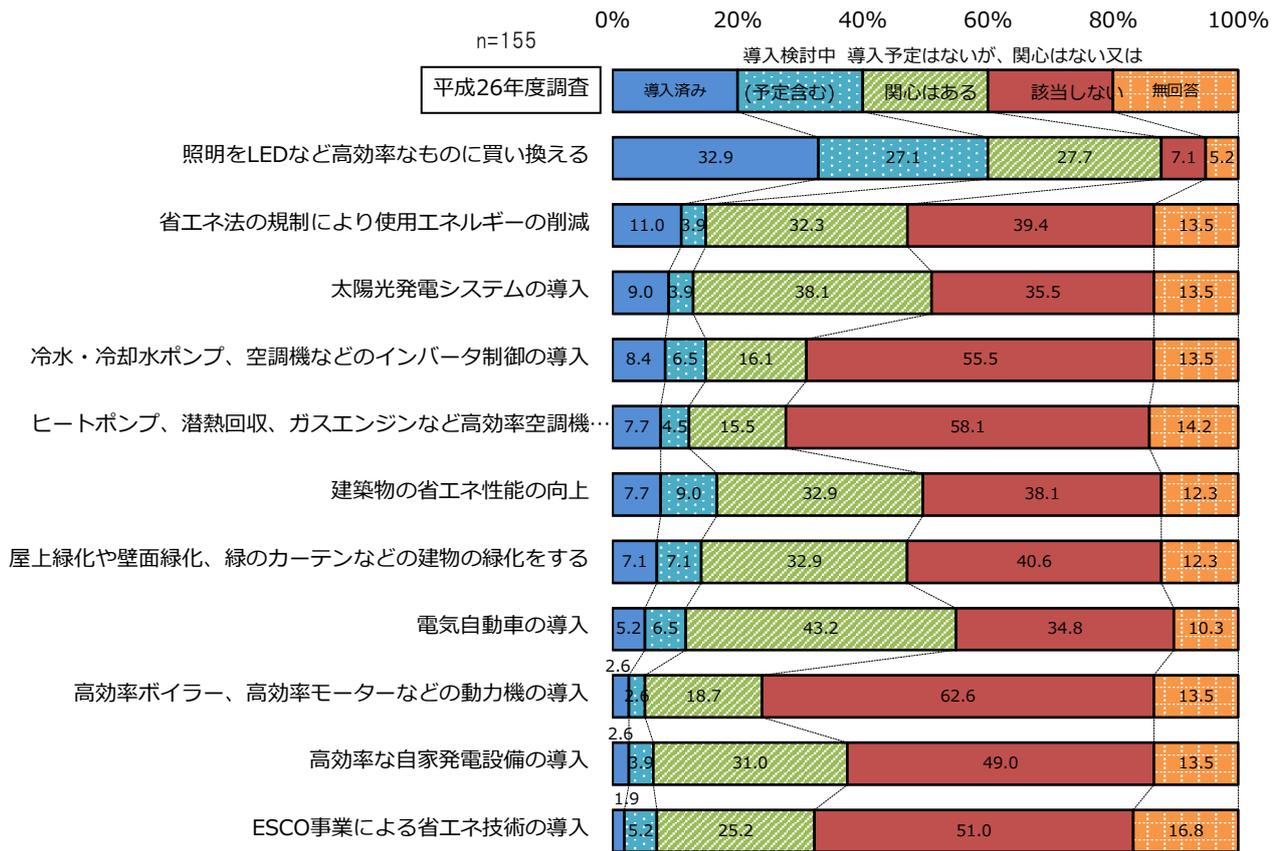


③環境活動に対する取組内容（問7）（SA）

環境活動への取組状況についてみると、「導入済み」の割合が高い項目としては、「LED照明」が54.9%、「屋根、壁、床などに断熱材を採用」が28.3%、「空調、給湯設備について省エネ型機の導入」が26.5%となっています。また、「導入検討中」の割合が高い項目としては「LED照明」が19.5%で最も高く、次いで「空調、給湯設備について省エネ型機の導入」が13.3%、「プラグインハイブリッド自動車」が11.5%となっています。

「導入済み」の状況について平成26年度調査と比較可能な5項目について比べると、「太陽光発電設備」、「LED照明」、「敷地内、壁面、屋上などの緑化」、「エネルギー供給設備に、省エネルギー型機の導入」において導入割合の増加が見られます。「電気自動車」の導入割合は減少していますが、平成26年度と比べると、環境活動の取組が進んでいると考えられます。



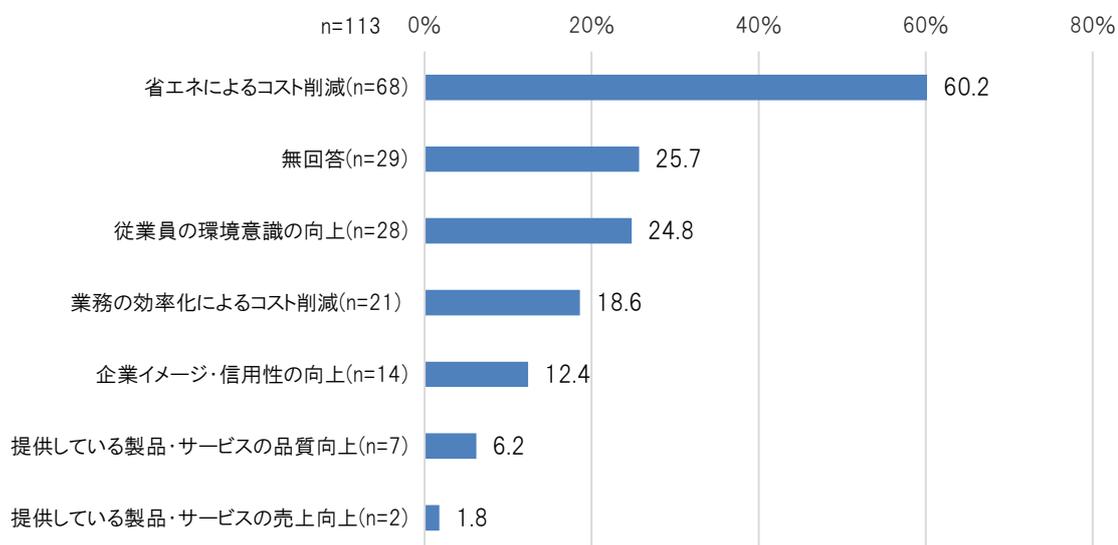


【平成 26 年度調査との「導入済み」項目の比較可能な項目】

「導入済み」の項目	平成 26 年度調査	平成 31 年度調査	増減
太陽光発電設備	9.0%	13.3%	+4.3%
LED 照明	32.9%	54.9%	+22.0%
電気自動車	5.2%	0.9%	▲4.3%
敷地内、壁面、屋上などの緑化	7.1%	17.7%	+10.6%
エネルギー供給設備に、省エネルギー型機の導入	2.6%	9.7%	+7.1%

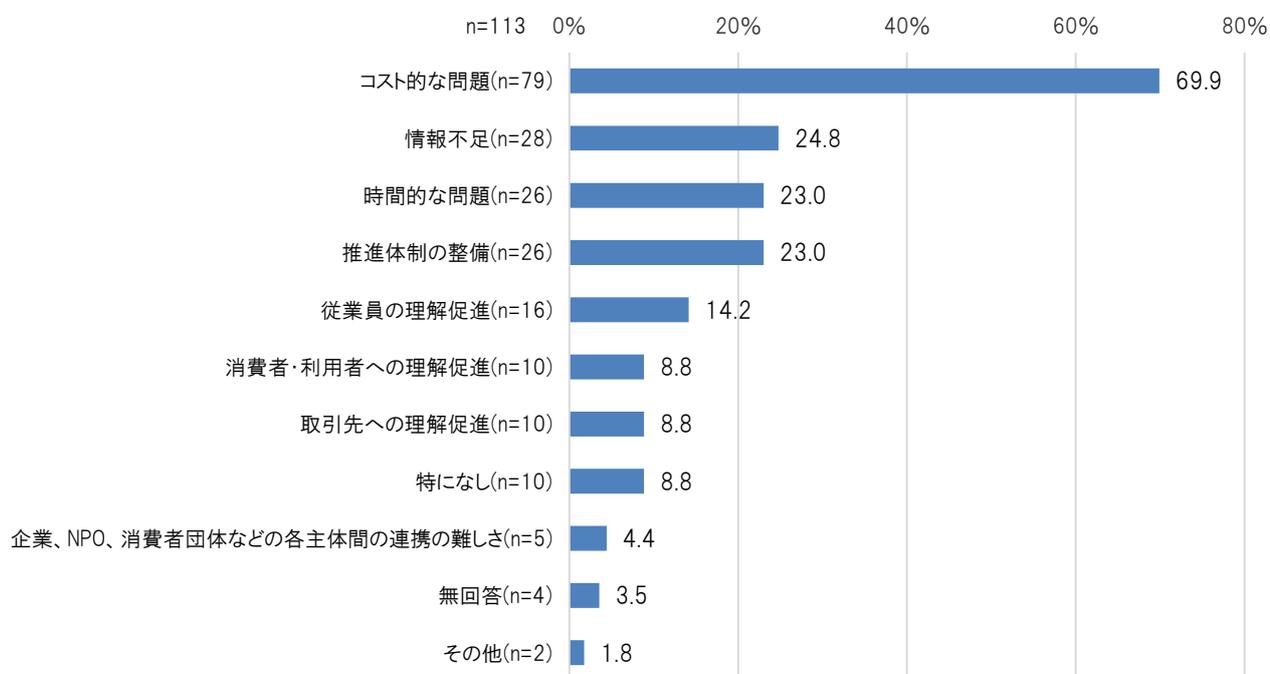
④環境活動に取り組むことで得られた効果（問 8）（MA あてはまるものすべて）

問 6 又は問 7 で一つでも環境活動を実施、導入していると回答した事業所における、環境活動に取り組むことで得られた効果を見ると、「省エネによるコスト削減」が 60.2%と最も高く、次いで「従業員の環境意識の向上」が 24.8%となっています。



⑤環境活動を実施する上での課題（問 9）（MA あてはまるものすべて）

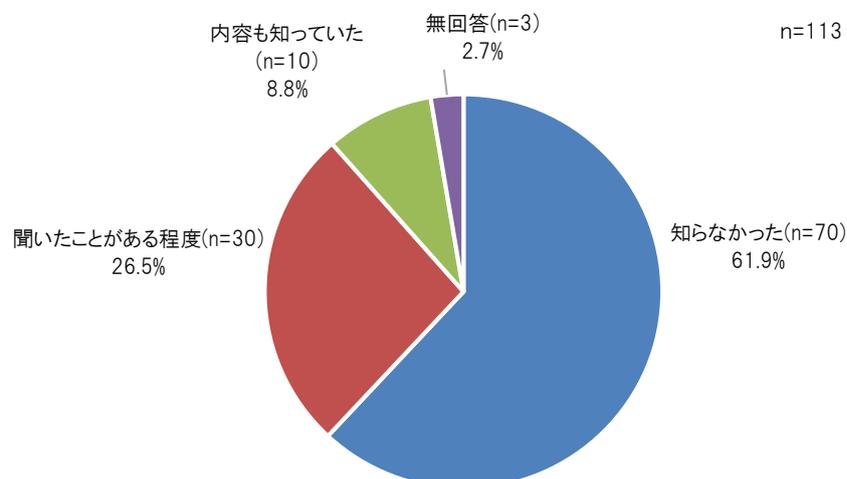
環境活動を実施する際の課題としては、「コスト的な問題」が 69.9%と最も高くなっており、次いで「情報不足」24.8%、「時間的な問題」、「推進体制の整備」がそれぞれ 23.0%となっています。



3) SDGs (Sustainable Development Goals) について

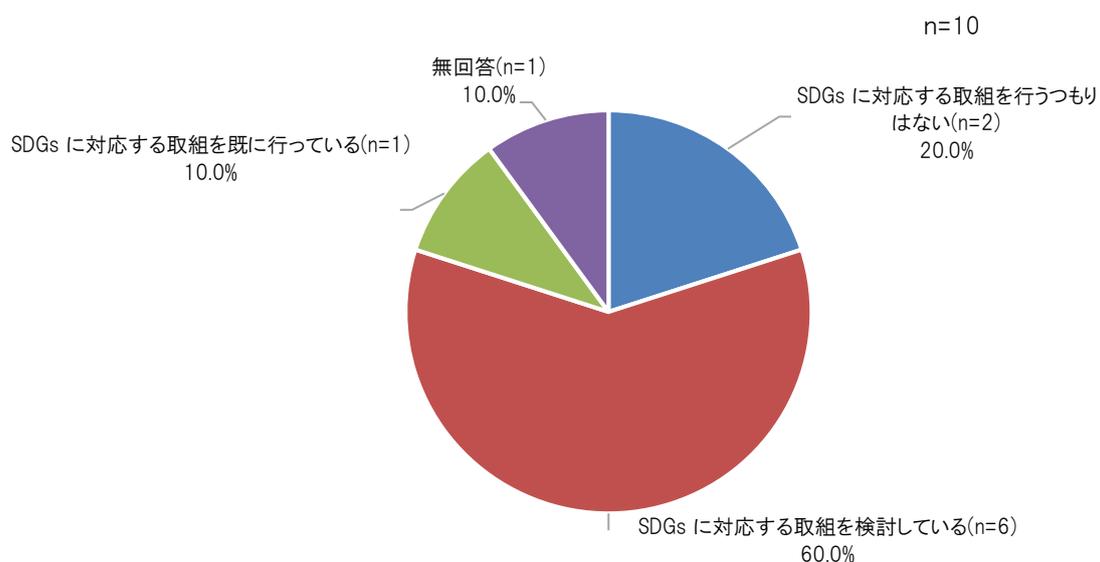
①SDGs の認知度について (問 10) (SA)

SDGs の認知度についてみると、「知らなかった」が 61.9%と最も多く、「内容を知っていた」事業所は 8.8%となっています。



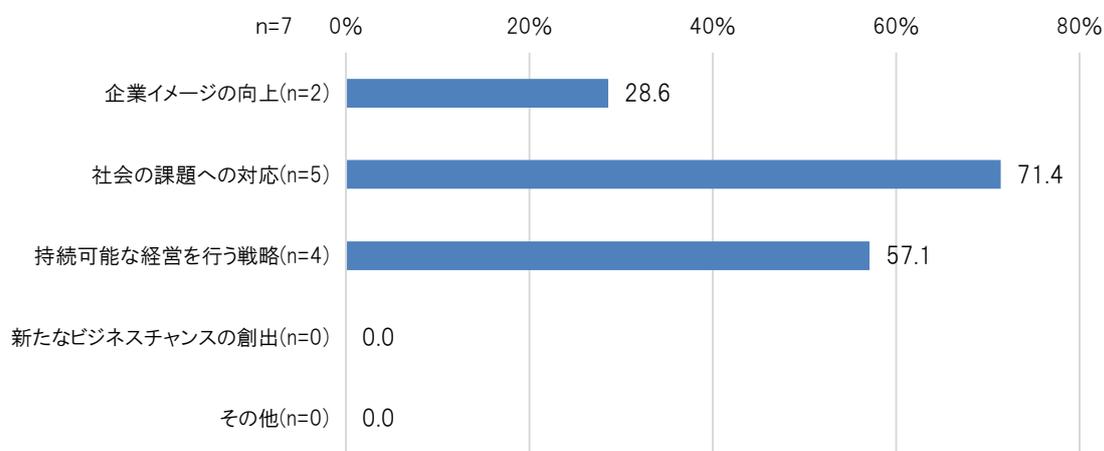
②-1 SDGs への対応状況について (問 11-1) (SA)

問 10 において、「SDGs の内容も知っていた」と回答した 10 事業所の SDGs への対応状況についてみると、「SDGs に対応する取組を検討している」が 6 事業所で最も多く、次いで「SDGs に対応する取組を行うつもりはない」が 2 事業所、「SDGs に対応する取組を既に行っている」が 1 事業所、「無回答」が 1 事業所となっています。



②-2 SDGs に対応する取組を行う目的（問 11-2）（MA あてはまるものすべて）

SDGs への取組を検討又はすでに行っている 7 事業所における、その目的についてみると、「社会の課題への対応」が 5 社と最も多く、次いで「持続的な経営を行う戦略」が 4 社、「企業イメージの向上」が 2 社となっています。



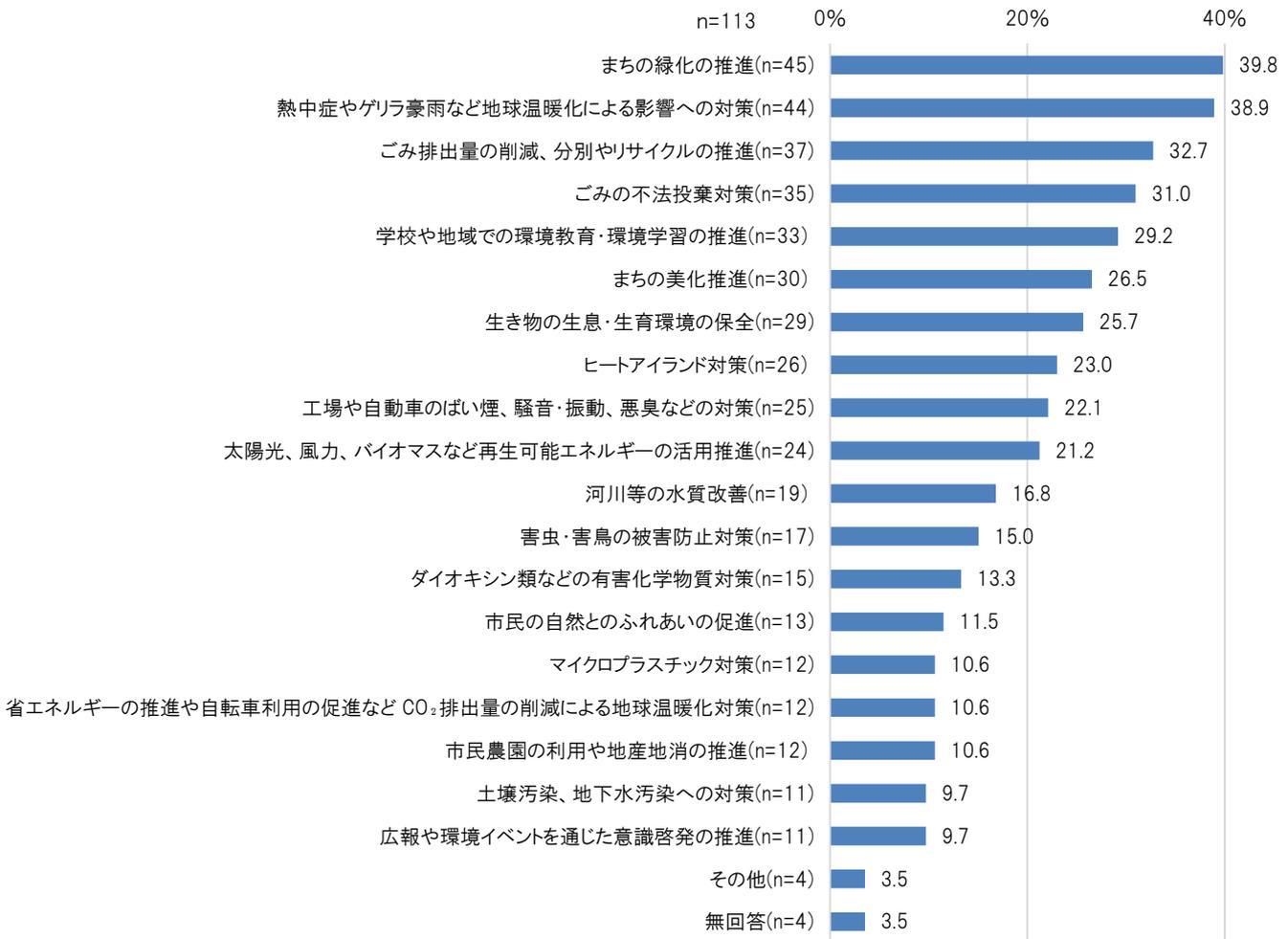
②-3 SDGs に対応する取組内容（問 11-3）（自由記入）

SDGs に対応する取組内容としては、「サステナビリティを意識した家づくり（建設業）」や「来院者への SDGs に関連する項目の説明（医療・福祉）」といったことが挙げられています。

4) 市の環境への取組について

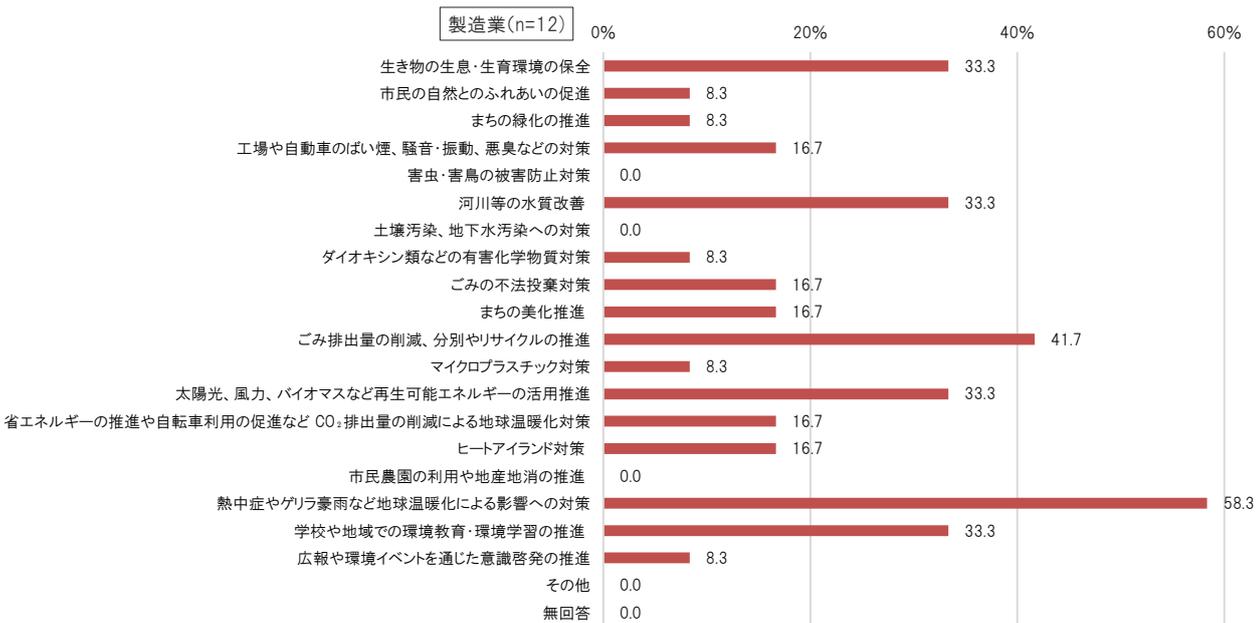
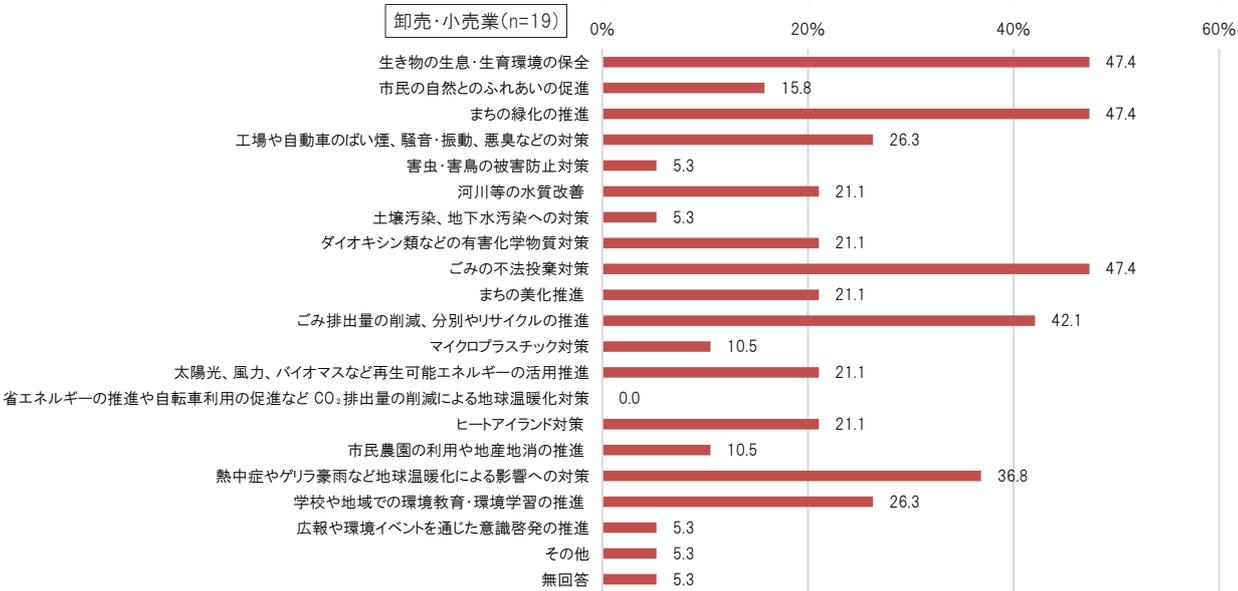
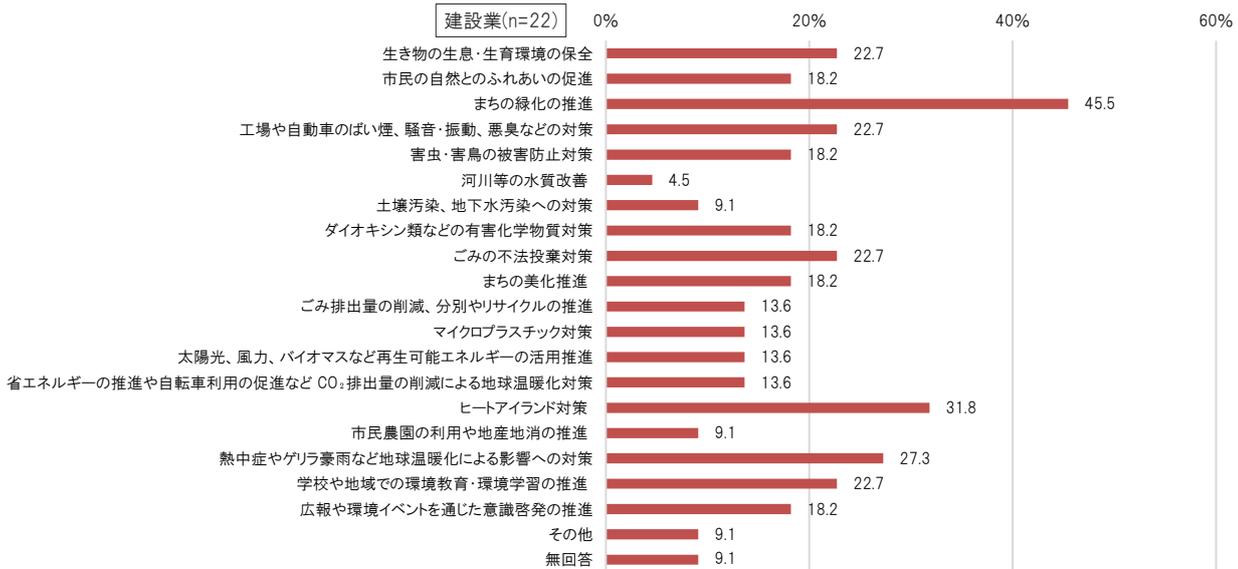
①-1 市が重点的に取り組むべき環境対策（問 12）（MA 回答 5 つまで）

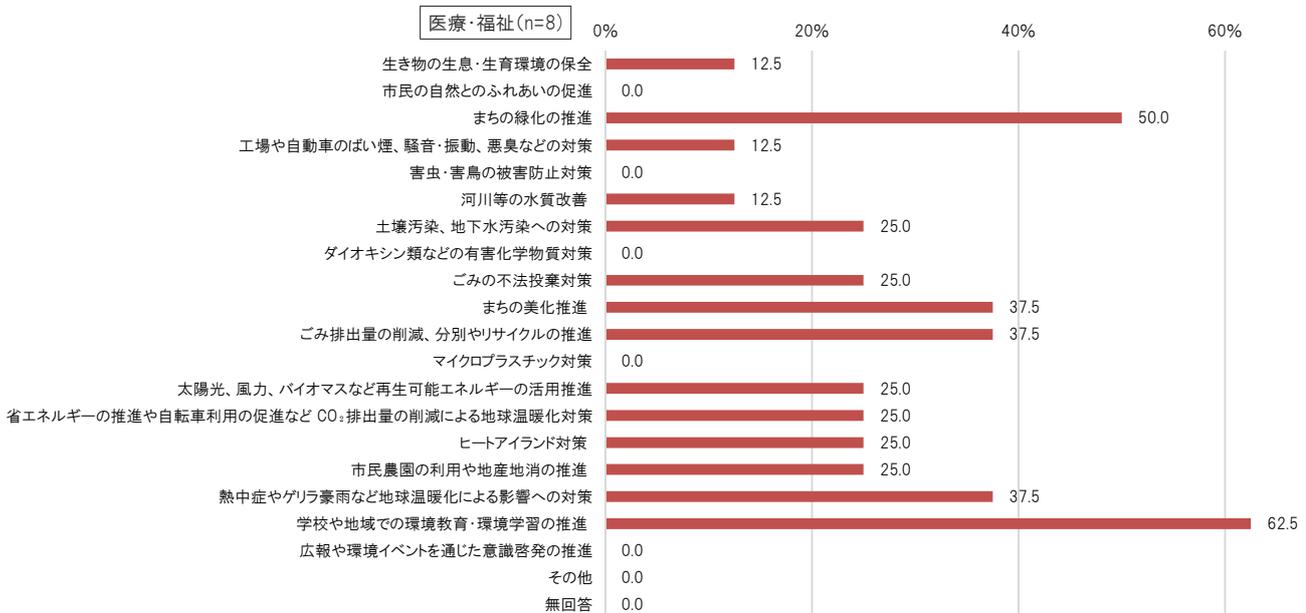
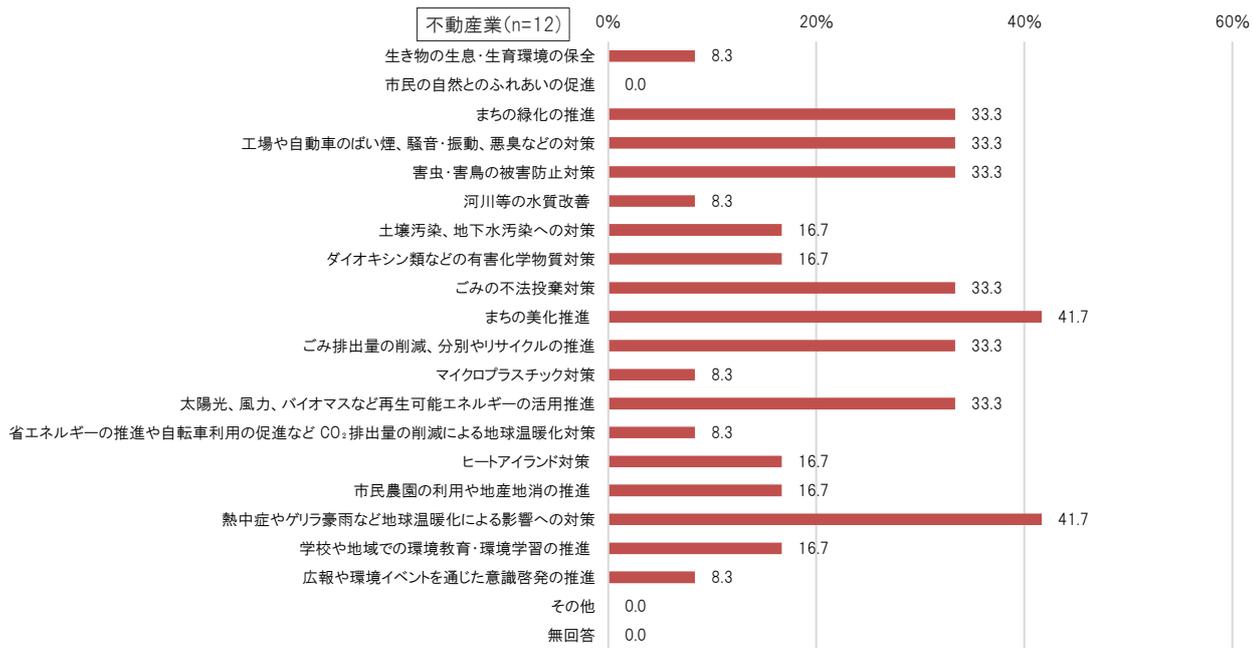
市が重点的に取り組むべき対策としては、「まちの緑化の推進」が 39.8%と最も高く、次いで「熱中症やゲリラ豪雨など地球温暖化による影響への対策」が 38.9%、「ごみ排出量の削減、分別やリサイクルの推進」が 32.7%となっています。



①-2 業種別にみた市が重点的に取り組むべき環境対策（クロス集計）

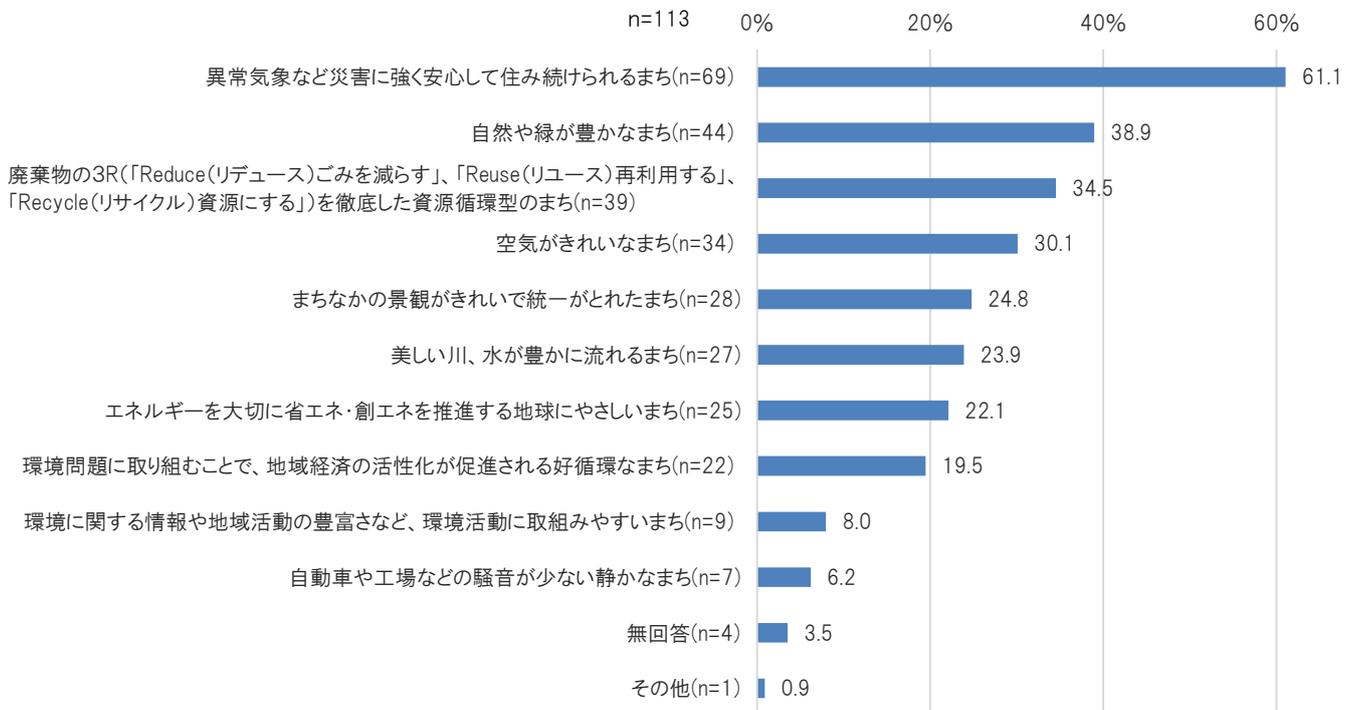
8 事業所以上の回答があった業種について、業種ごとに「市が重点的に取り組むべき環境対策」についてみると、『建設業』では「まちの緑化の推進」、『卸売・小売業』では「生き物の生息・生育環境の保全」、「まちの緑化の推進」及び「ごみの不法投棄対策」、『製造業』では「熱中症やゲリラ豪雨など地球温暖化による影響への対策」、『不動産業』では「まちの美化推進」及び「熱中症やゲリラ豪雨など地球温暖化による影響への対策」、『医療・福祉』では「学校や地域での環境教育・環境学習の推進」の割合が最も高くなっています。





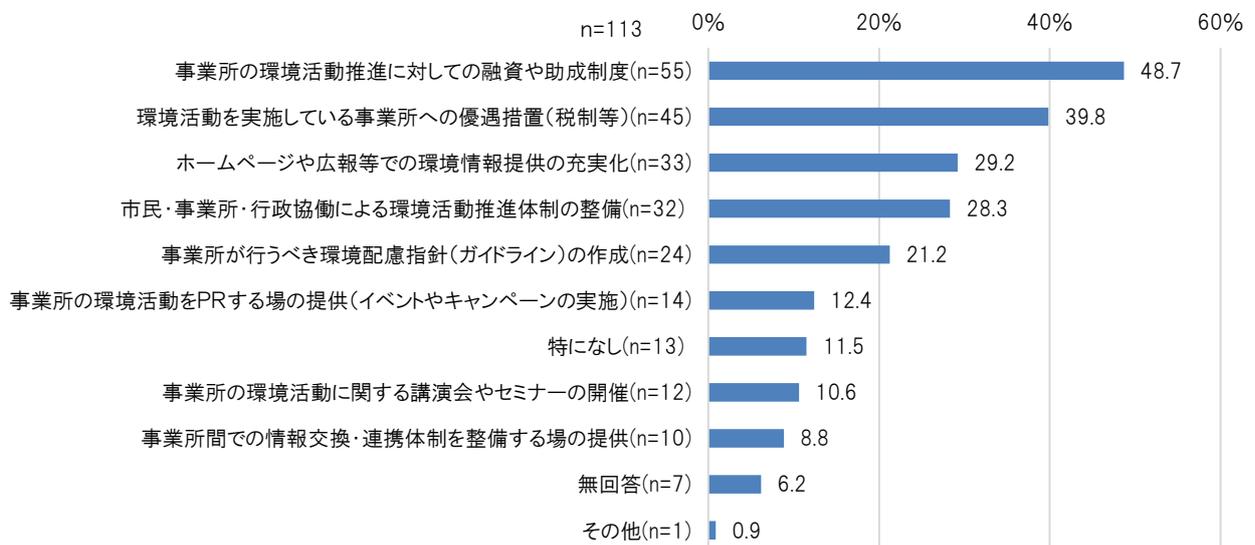
②上尾市の環境の将来あるべき姿（問 13）（MA3 つまで）

上尾市の環境の将来あるべき姿についてみると、「異常気象など災害に強く安心して住み続けられるまち」が 61.1%と最も高く、次いで「自然や緑が豊かなまち」が 38.9%、「廃棄物の 3R（「Reduce（リデュース）ごみを減らす」、「Reuse（リユース）再利用する」、「Recycle（リサイクル）資源にする」）を徹底した資源循環型のまち」が 34.5%となっています。



③環境活動を進めるために実施してほしい行政サポート（問 14）（MA3 つまで）

環境活動を進めるために実施してほしい行政サポートについてみると、「事業所の環境活動推進に対する融資や助成制度」が 48.7%と最も高く、次いで「環境活動を実施している事業所への優遇措置（税制等）」が 39.8%、「ホームページや広報等での環境情報提供の充実化」が 29.2%となっています。



⑮事業所と市が協働して取り組める環境活動（問 15）（自由記入）

事業所と市が協働して取り組める環境活動についてみると、「まちの美化」、「風力発電等の売電活動」、「緑地化」、「意見交換の場をもつ」などといった意見が見られました。

また、「市へ提出する資料の電子化（ペーパーレス、移動による付加の減少）」や「太陽光発電設備への助成の拡大」といった具体的な意見も見られました。

⑯環境にかかわる意見（問 16）（自由記入）

環境にかかわる自由意見についてみると、「子どもの環境教育をふるさと納税の目的にする」や「会社として環境の取組を意識したことがなかったので良い意識づけになった。小さいところから始めてみようと思った」、「安心して暮らせるまちには人や企業が集まり、市が繁栄する」などといった意見が挙げられました。